

平成28年度
第9回 三重県河川整備計画
流域委員会

二級河川 金剛川

平成29年3月27日





目次

1. これまでの経緯
2. 前回流域委員会での意見・回答
3. 住民アンケート調査結果
4. 流域の概要
5. 現状と課題（治水、利水、環境）
6. 河川整備基本方針の概要
7. 河川整備計画の概要
8. 今後の予定



1. これまでの経緯



□ 第1回 流域委員会（H28年7月12日）

- ✓ 流域の概要、現地確認

□ 第1回 アンケート（H28年8月頃）

- ✓ 関係住民の意見聴取

□ 第2回 流域委員会（H28年10月25日）

- ✓ 治水・利水・環境の現状・課題
- ✓ 河川整備計画の検討の概要

□ 第3回 流域委員会（H29年1月31日）

- ✓ 河川整備計画の概要

□ 第2回 アンケート（H28年2月）

- ✓ 関係住民の意見聴取

□ 第4回 流域委員会（H29年3月27日） ←今回開催

- ✓ 河川整備計画原案の提示

□ 関係機関協議・パブリックコメント・関係市長 意見聴取

□ 策定



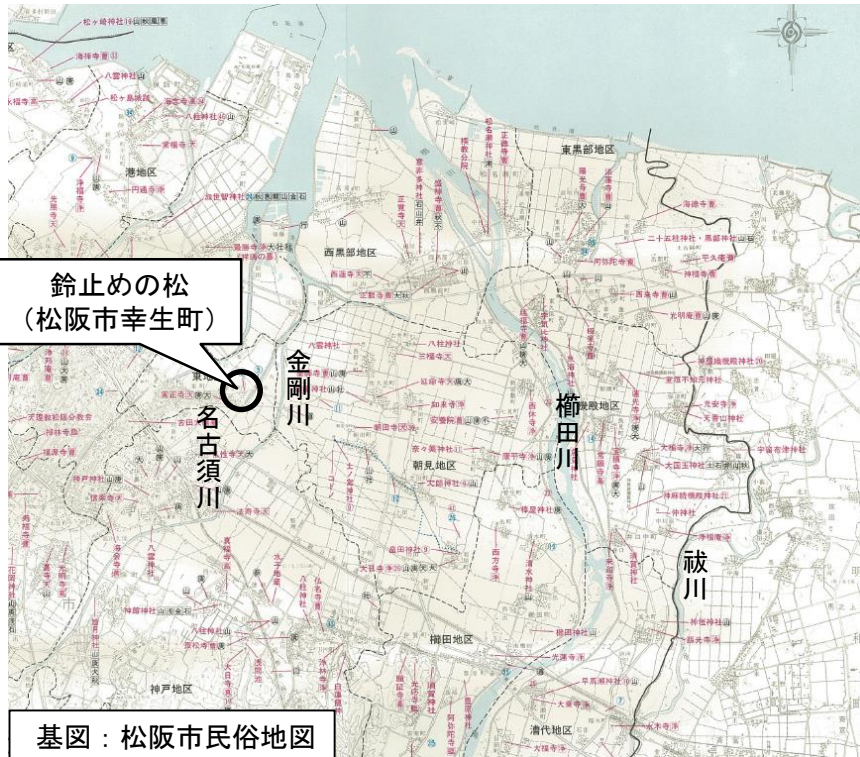
2. 前回委員会での意見・回答

第3回流域委員会の主な意見と回答

□ 平成29年1月31日 第3回流域委員会を開催

Q1:「禊の碑」を再度現地確認し、歴史的な重要性を明記して欲しい。

A1: 石碑を現地で確認。整備計画本文のP.6(流域の概要)に以下のとおり記載しました。
「平安時代に群行が行われた際、齋王が齋宮(現在の明和町)に入る前に、下樋小川や祓川で禊をしたという址が今も語り伝えられている。櫛田川は幾度も河道を替えており、定かではないが、名古須川が、かつての禊の場であったのではないかとされている。」
(松阪市史)

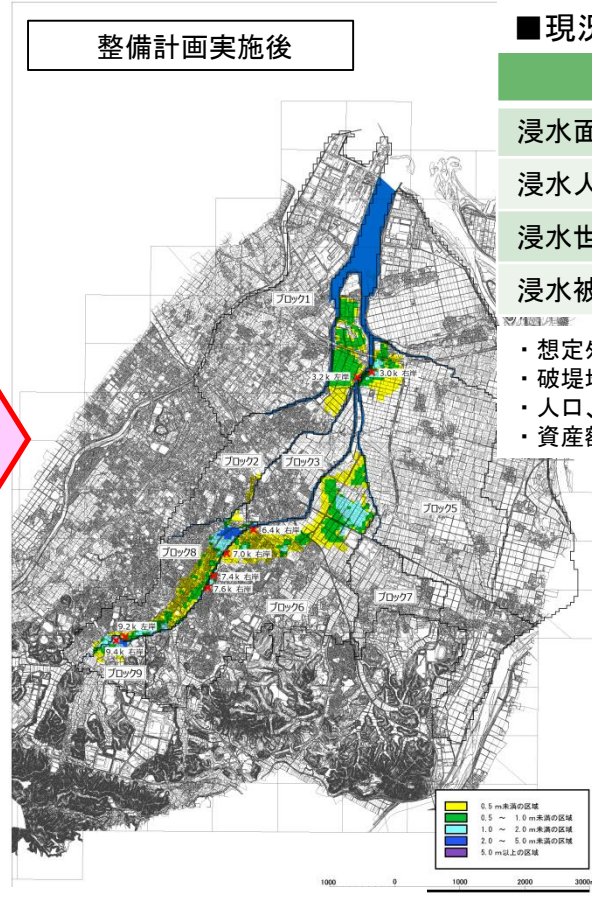
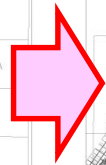
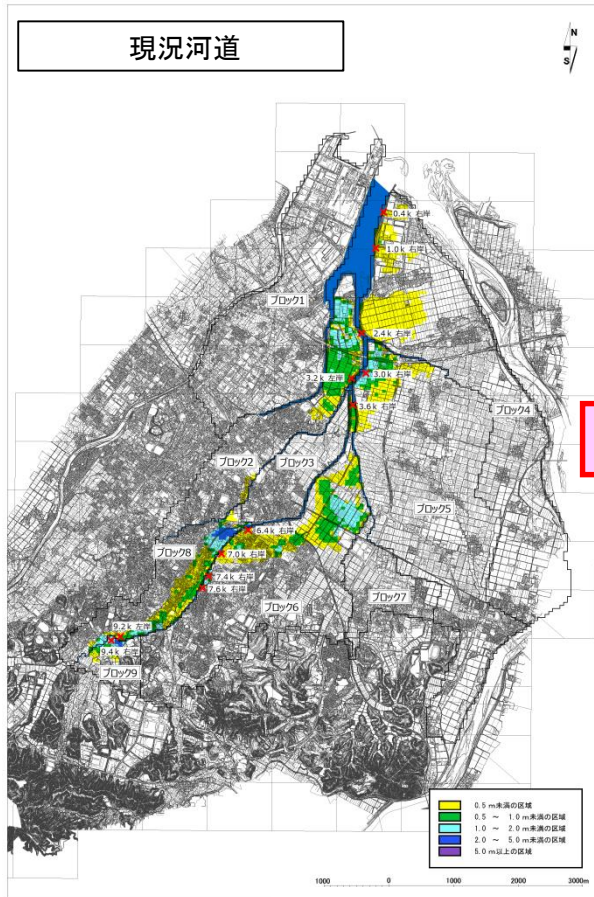


第3回流域委員会の主な意見と回答

平成29年1月31日 第3回流域委員会を開催

Q2: 整備計画の実施によって、どれくらいの浸水が軽減するのか。

A2: 整備計画の実施により、浸水面積:203ha 浸水人口:322人 軽減される。
(年超過確率1/5)



■ 現況河道及び整備計画実施後の被害状況

	現況河道	整備計画実施後
浸水面積	521ha	318ha
浸水人口	5,381人	5,059人
浸水世帯数	2,207世帯	2,098世帯
浸水被害額	270億円	251億円

- ・ 想定外力: 年超過確率 1/5
- ・ 破堤地点: 氾濫ブロック毎で被害額最大地点
- ・ 人口、世帯数の算定に用いたデータ: 国勢調査H22
- ・ 資産額: H27評価額

金剛川の整備計画目標流量(1/5)を想定した氾濫域



3. 住民アンケート調査結果



■第1回アンケート調査の結果

- 目的：金剛川に対する住民意識とニーズの把握
- 調査対象地域・調査対象者：松阪市（金剛川流域）・各自治会代表者
- 調査期間：平成28年9月13日～26日
- 回答率：71%（配布数：139 回収数：99）

水害について	<ul style="list-style-type: none">✓ 水害(洪水、津波、高潮)に対して不安な川であると回答した方が約8割。✓ そのうち、洪水が不安だと回答した方が約7.5割、津波と回答した方が約2.5割。✓ 施設の老朽化から洪水に対して不安を抱く方が多く約5割を占めた。✓ 津波に対して不安に思う理由としては、想定最大規模の津波により浸水する可能性を選択する方が最も多い。✓ 地震によって施設が壊れることを不安に感じている人もいる。
水質について	<ul style="list-style-type: none">✓ 「汚い」と回答した人が多く、6.5割程度を占める。✓ 「汚い」と回答した人は、ゴミやヘドロの堆積、生物の少なさをあげている。
自然・風景について	<ul style="list-style-type: none">✓ 「自然が少ない」と回答した人が6割程度、「風景が悪い」と回答した人が6割程度を占めた。✓ 「自然が少ない、風景が悪い」と回答した人は、ゴミやヘドロの堆積、植生の繁茂等の他、散歩などの利用や、清掃活動などができないことをあげている。
利用について	<ul style="list-style-type: none">✓ 週に数回以上行く人は3割程度で、7割程度の人あまり金剛川には行かない。✓ 利用者は、散歩、ジョギングが多く、次いで清掃活動となっている。
将来像について	<ul style="list-style-type: none">✓ 洪水に対して安全な川にしてほしいと回答する人が最も多かった。✓ 津波、高潮に対して安全にしてほしいと回答する人も半数くらいいる。✓ 水がきれいな川を望む人も半数を上回った。



第2回アンケート調査の概要

目的

金剛川水系河川整備計画に対する住民意見の把握

調査対象地域

松阪市 金剛川流域

調査対象者

各自治会代表者

調査期間

平成29年2月16日～28日

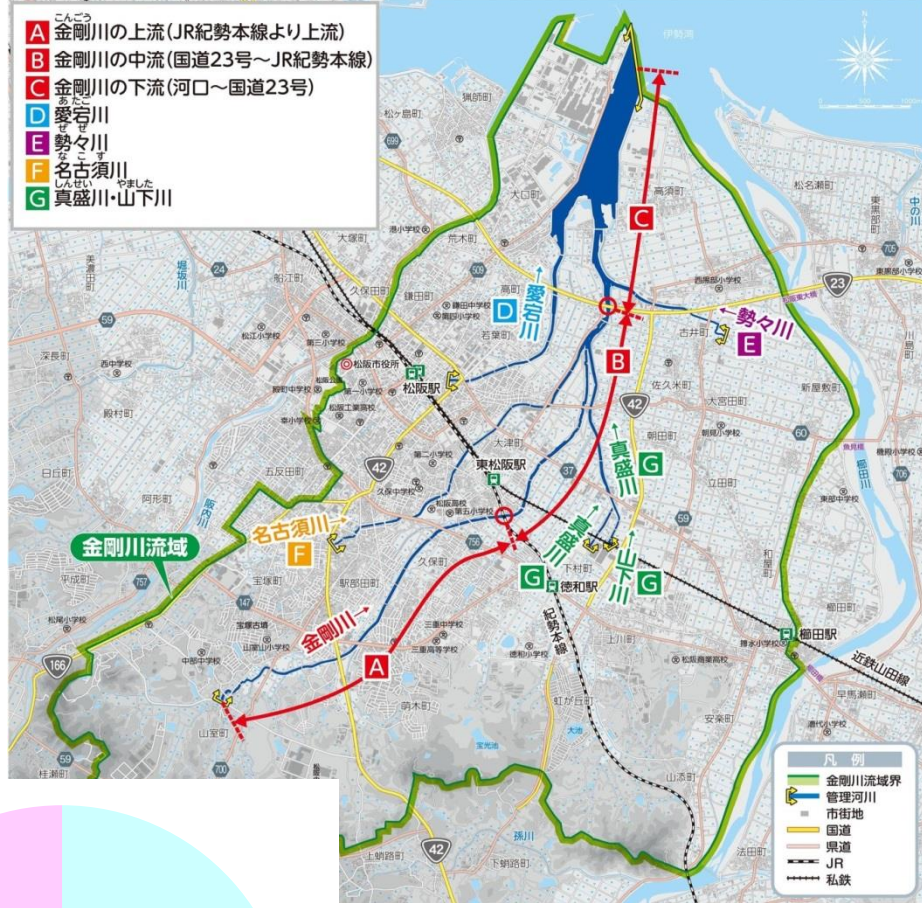
集計方法

- ・ 単純集計
- ・ 関心がある河川ごとに集計

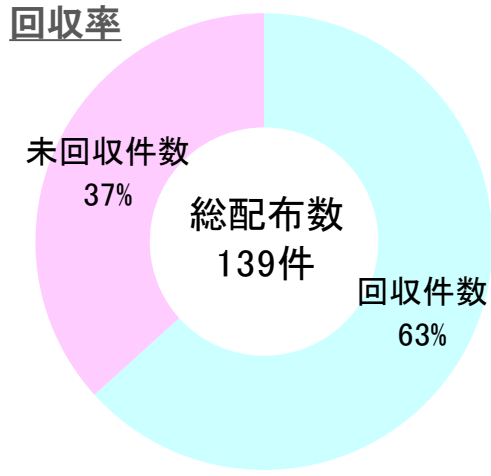
回答率

63%

(配布数：139 回収数：88)



関心のある河川の集計に用いた川の区分



2017/3/6時点

総配布数	回収数	回答率
139	88	63%



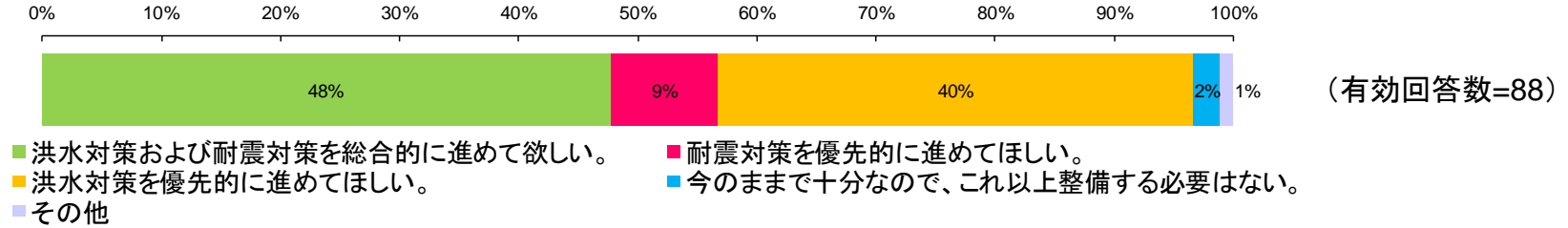
■第2回アンケート調査の結果(整備計画(原案))

□ 「洪水対策および河口部施設の耐震対策を総合的に進めてほしい」と回答した方が、概ね5割を占めた。

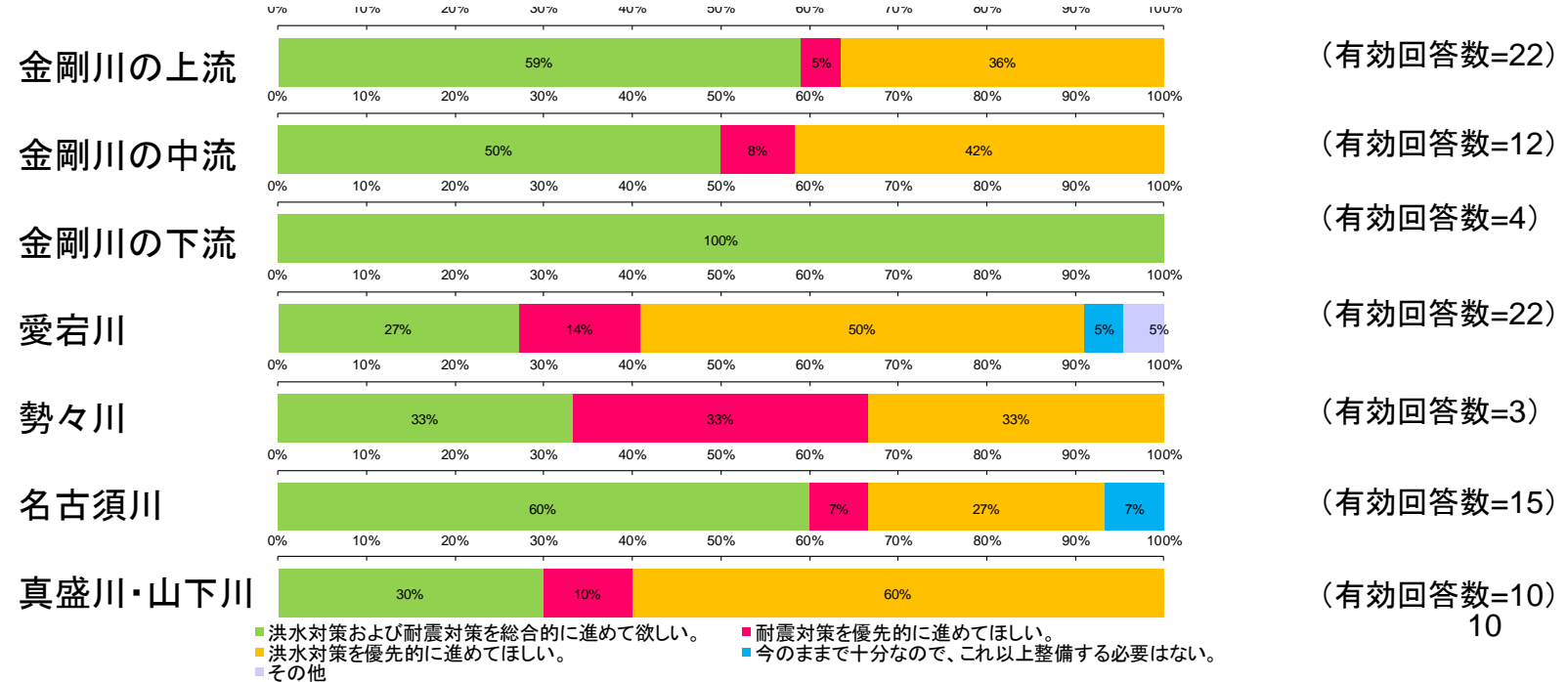
□ 金剛川と名古屋須川に関心がある方は「洪水対策および河口部施設の耐震対策を総合的に進めてほしい」という意見が多く、愛宕川及び真盛川・山下川では「洪水対策を優先して欲しい」という意見の割合が相対的に高い。

問3 洪水対策、耐震対策として、どのように進めていくかについてのご意見をうかがいます。

全体集計



関心がある河川別集計

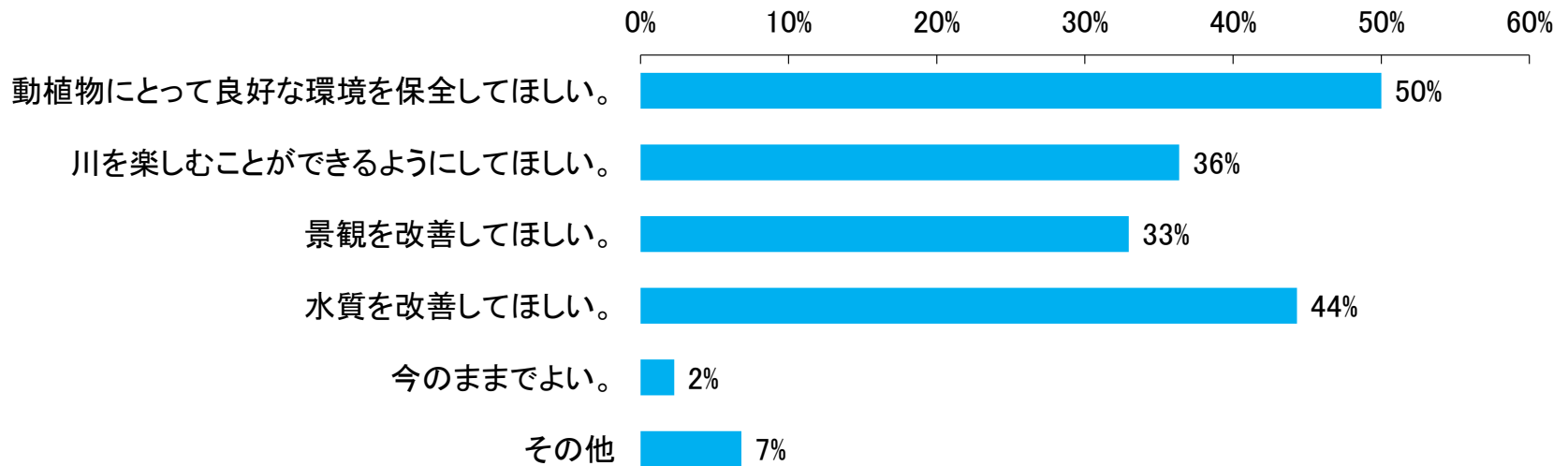


■ 第2回アンケート調査の結果（環境等）



- 動植物にとって良好な環境の保全や、水質の改善を望む意見が多い。
- また、河川の利用（川を楽しむ）及び景観の改善に関する意見も多く見られた。

問4 金剛川の環境等に関して、これから望むことをお伺いします（複数回答可）



※問4に回答した88人のうち、各項目を選択した割合を示す



4. 流域の概要

■ 金剛川水系の概要

□ 関係市

- ・ 松阪市

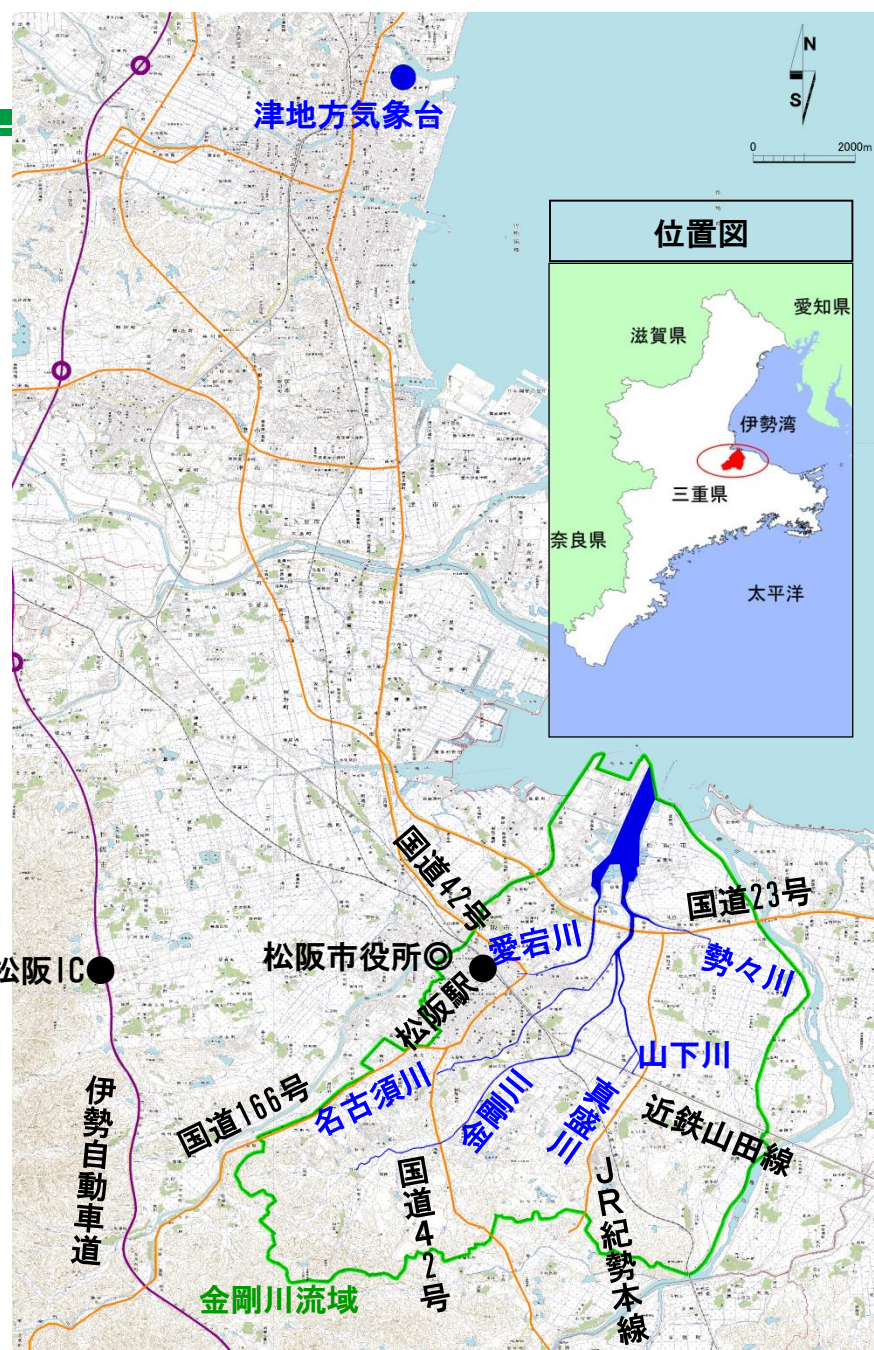
□ 主要道路

- ・ 国道23号、国道42号、国道166号

□ 鉄道

- ・ JR紀勢本線、近鉄山田線

本川	支川	県管理区間	延長(km)
こんごう 金剛川		0.0k ~ 9.8k+75m	9.875
	あたご 愛宕川	0.0k ~ 4.8k+23m	3.270
	ぜげ 勢々川	0.0k ~ 1.6k	1.600
	なこす 名古屋川	0.0k ~ 4.0k	4.000
	しんせい 真盛川	0.0k ~ 2.4k+60m	2.460
	やました 山下川	0.0k ~ 0.4k+100m	0.500
流域面積(河口)		50.92 km ²	延長合計 21.705 km



流域の概要図

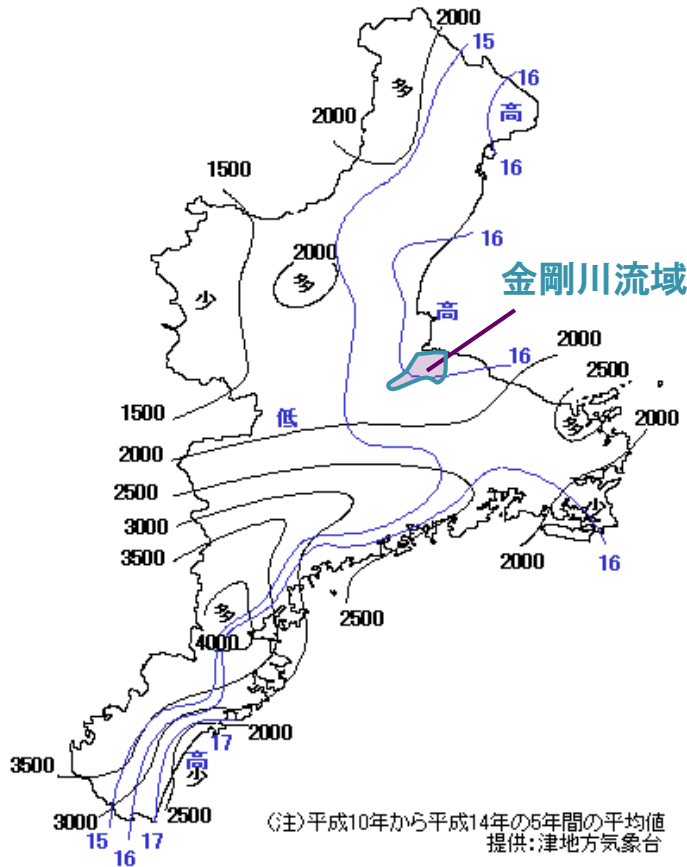
基図：平成20年 25,000分の1地形図（国土地理院）



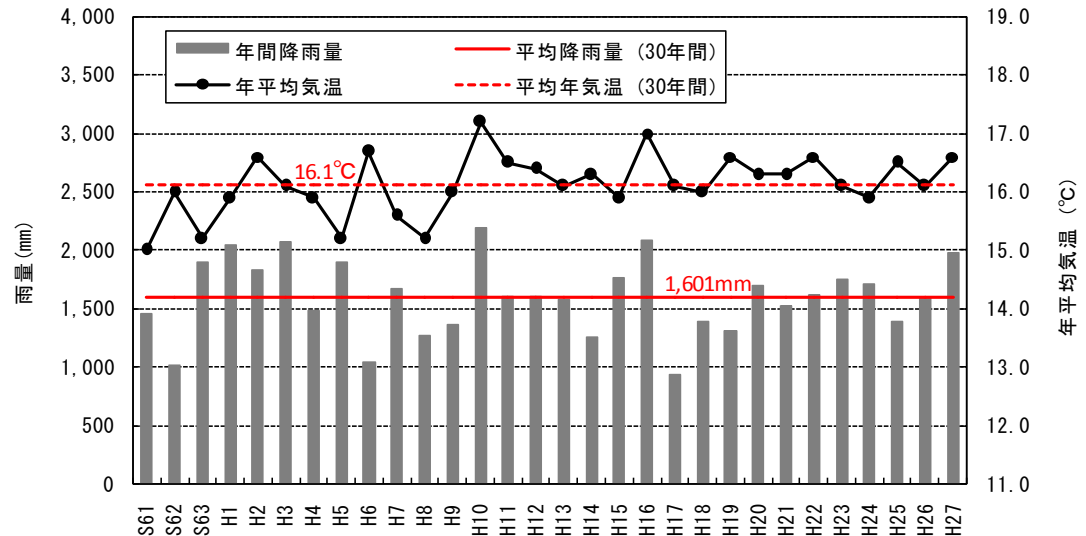
■ 気候 (S61~H27)

- 金剛川流域近傍（津気象台）のS61~H27（30年間）までの年平均気温は16.1℃、平均年間降水量は1,601mmである。
- 四季を通じて温暖で、雨量に関しては全国平均（1,718mm）を下回る。

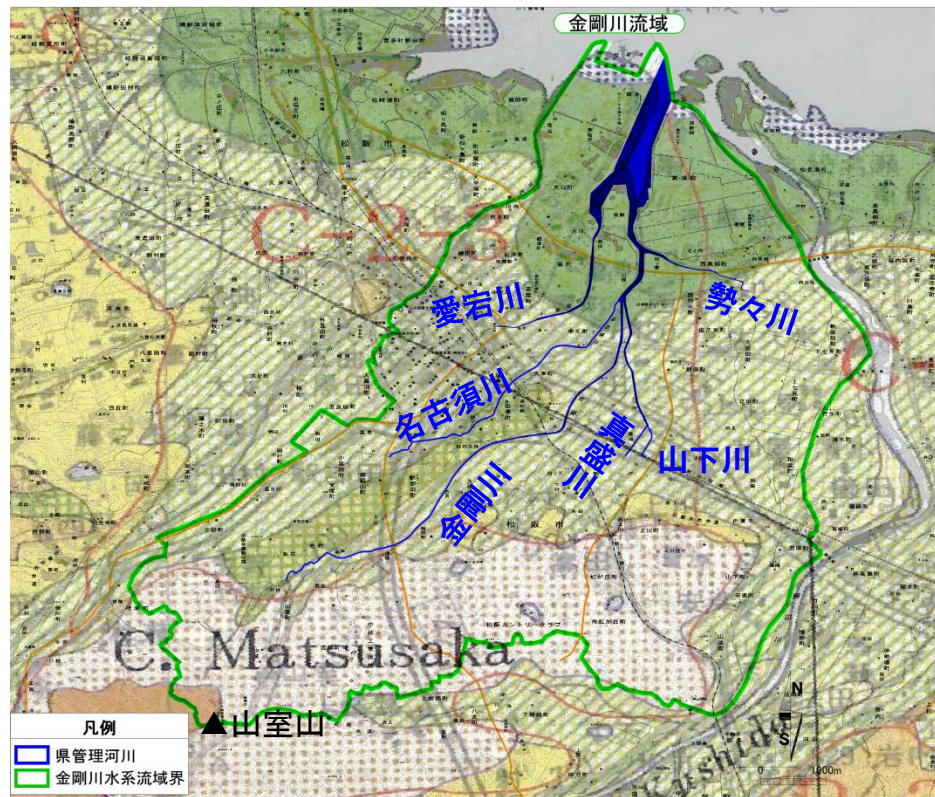
年平均気温（℃）・降水量(mm) 分布



年降水量・年平均気温(津気象台)

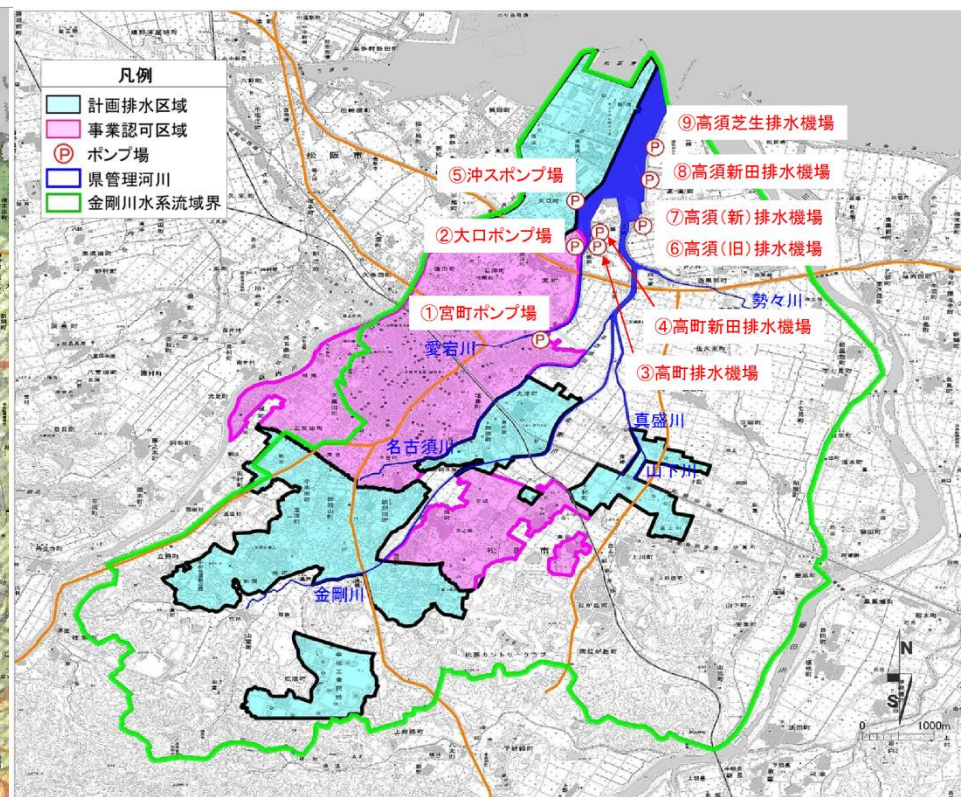


- 金剛川は山室山（標高：約210m）の源に発し、扇状地性低地を東流しながら、三角州性低地を貫流して伊勢湾に注ぐ。
- 三角州性低地の自然排水ができない区域には、多くの排水機場が存在する（計画を含めて11箇所）。



流域の地形

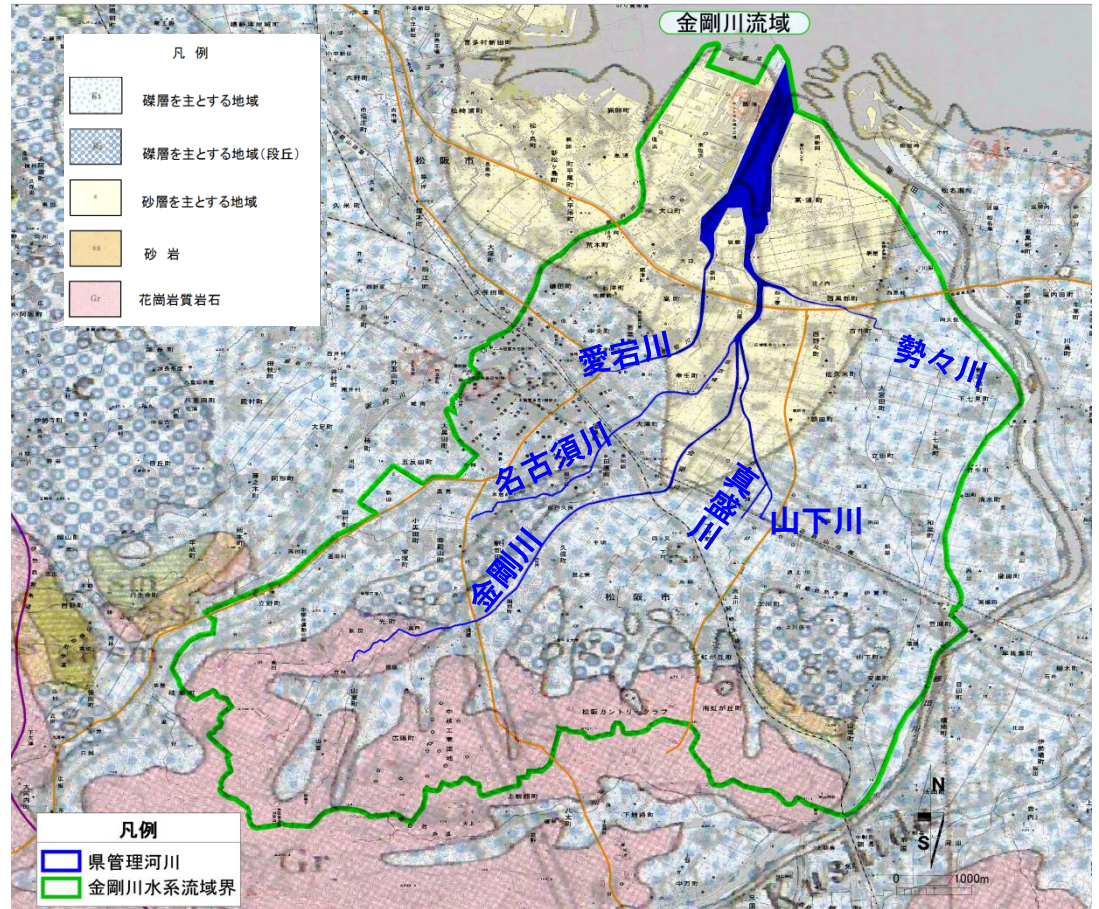
基図：土地分類図（地形分類図） 三重県 1975（監修 国土庁土地局国土調査課）



排水ポンプ場の位置図

基図：平成20年 25,000分の1地形図（国土地理院）
出典：松阪市公共下水道計画図（雨水）をもとに作成

- 流域の南部の山麓：花崗岩質岩石
- 中流域の扇状地性低地：礫層
- 三角州性低地：砂層

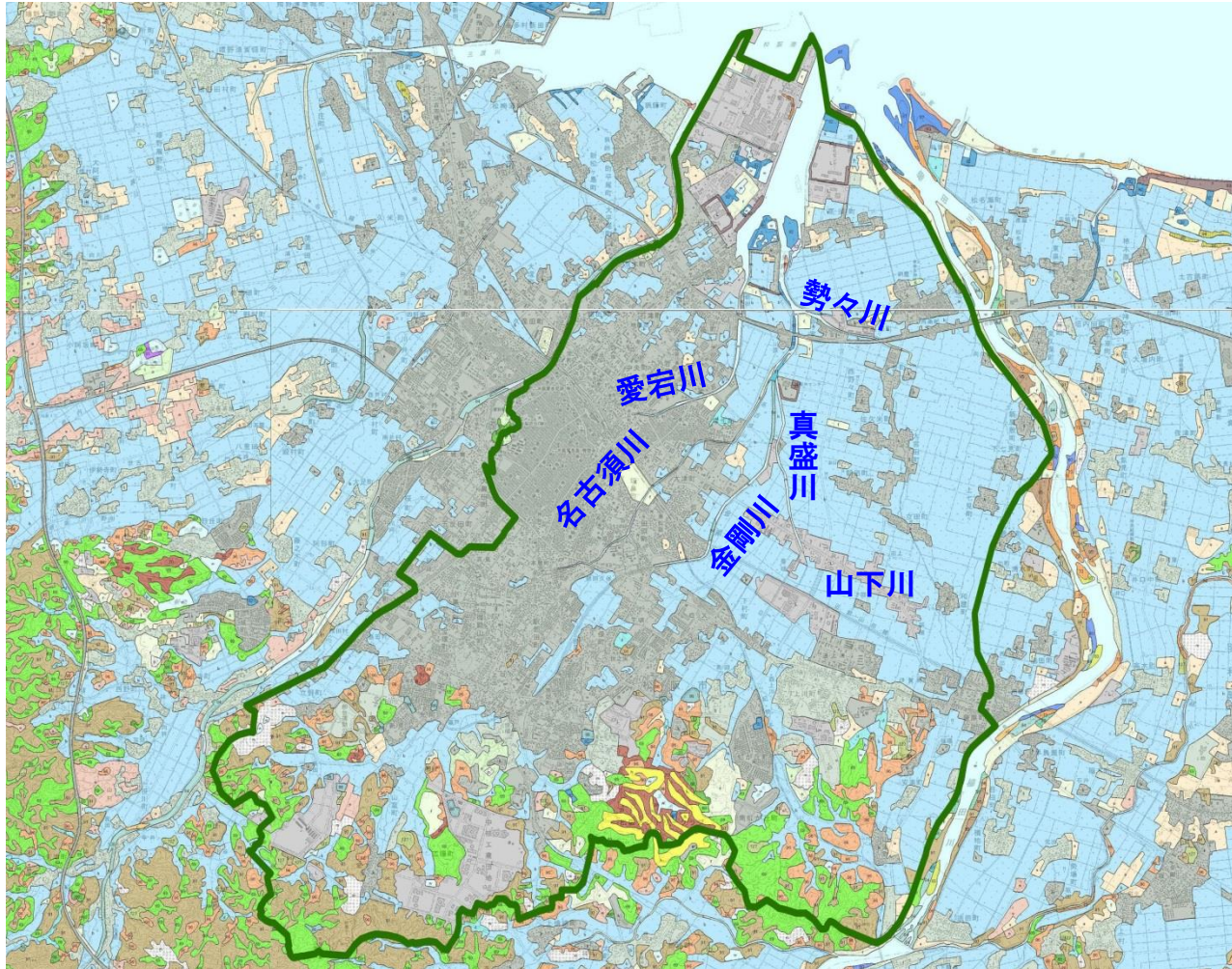


流域の地質

基図：土地分類図（表層地質類図-平面的分類図） 三重県 1975（監修 国土庁土地局国土調査課）

(第6回、第7回自然環境保全基礎調査(平成11~)結果、環境省HPより)

- 金剛川水系の植物群落は、ほとんど水田雑草群落と市街地となっている。
- 河道内には下流域を中心にヨシク拉斯の群落がある。



植生図 凡例

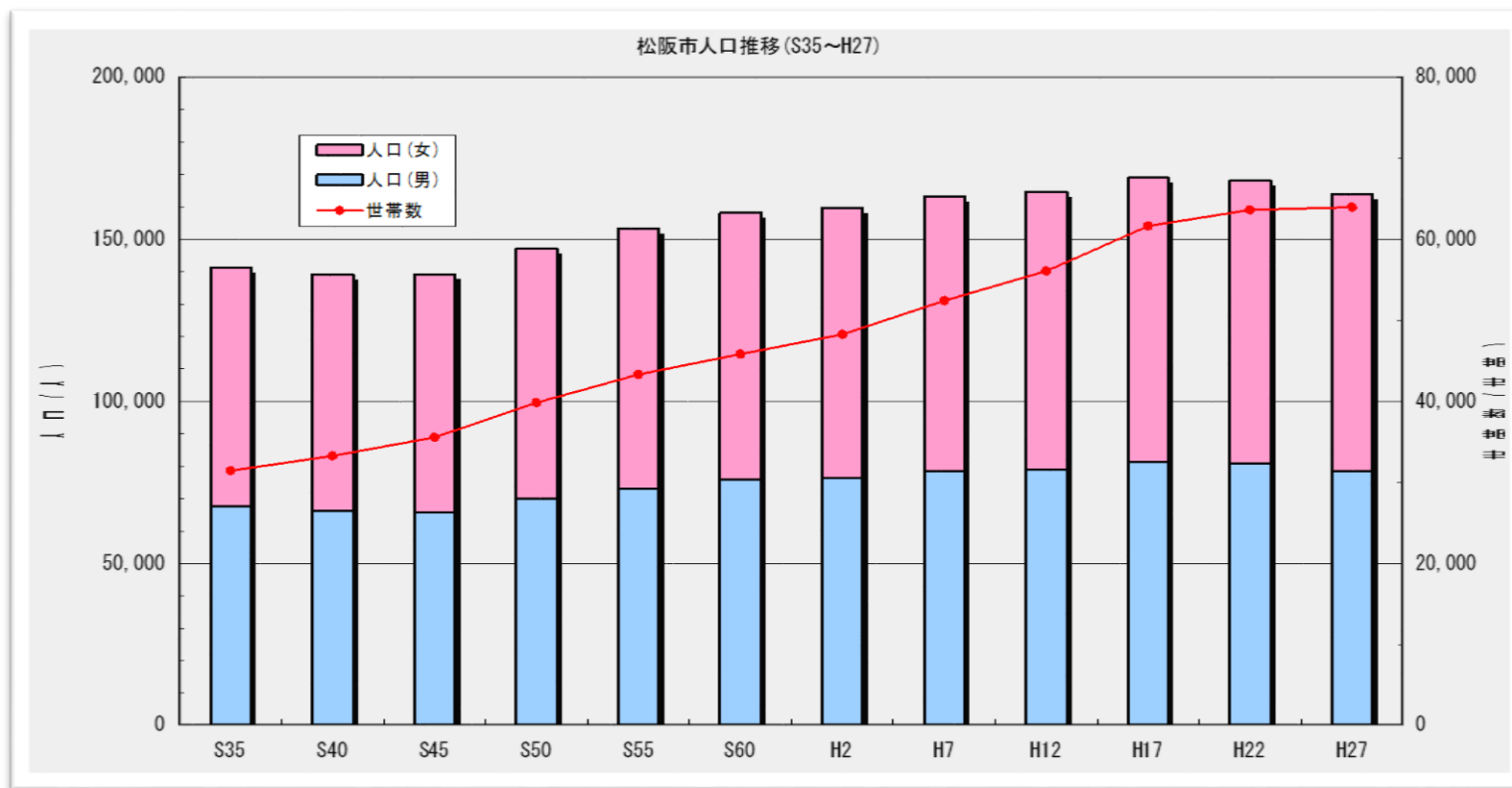
凡例 図中凡例番号、統一凡例コード、統一凡例名

50, 271600, タブノキ群落
58, 300104, ケヤキムクノキ群落
59, 310100, ハンノキ群落(VI)
60, 320100, ヤナギ高木群落(VI)
61, 320200, ヤナギ低木群落(VI)
66, 400100, シイ・カン二次林
69, 410105, アベマキ・コナラ群落
127, 410700, アカメガシワ・カラスザンショウ群落
70, 420102, モチツツジ・アカマツ群落
73, 430200, メダケ群落
82, 470400, ヨシク拉斯
83, 470500, 河川数砂礫地植生
84, 470501, ツルヨシ群落
86, 470600, ヒルムシロク拉斯
91, 540100, スギ・ヒノキ・サワラ植林
93, 540300, クロマツ植林
97, 540900, 外国産樹種植林
95, 541000, その他植林
96, 550000, 竹林
h, 560100, ゴルフ場・芝地
f, 570100, 路傍・空地雑草群落
e1, 570200, 果樹園
e2, 570201, 茶畑
a, 570300, 畑雑草群落
b, 570400, 水田雑草群落
d, 570500, 放棄水田雑草群落
k, 580100, 市街地
i, 580101, 緑の多い住宅地
p, 580200, 残存・植栽樹群をもつた公園、墓地等
L, 580300, 工場地帯
m, 580400, 造成地
w, 580600, 開放水域
r, 580700, 自然裸地



□ 人口：概ね増加傾向（S35～H17で約1.2倍に増加、至近年では微減傾向）

□ 世帯数：一貫して増加（S35～H27で約2.0倍に増加）



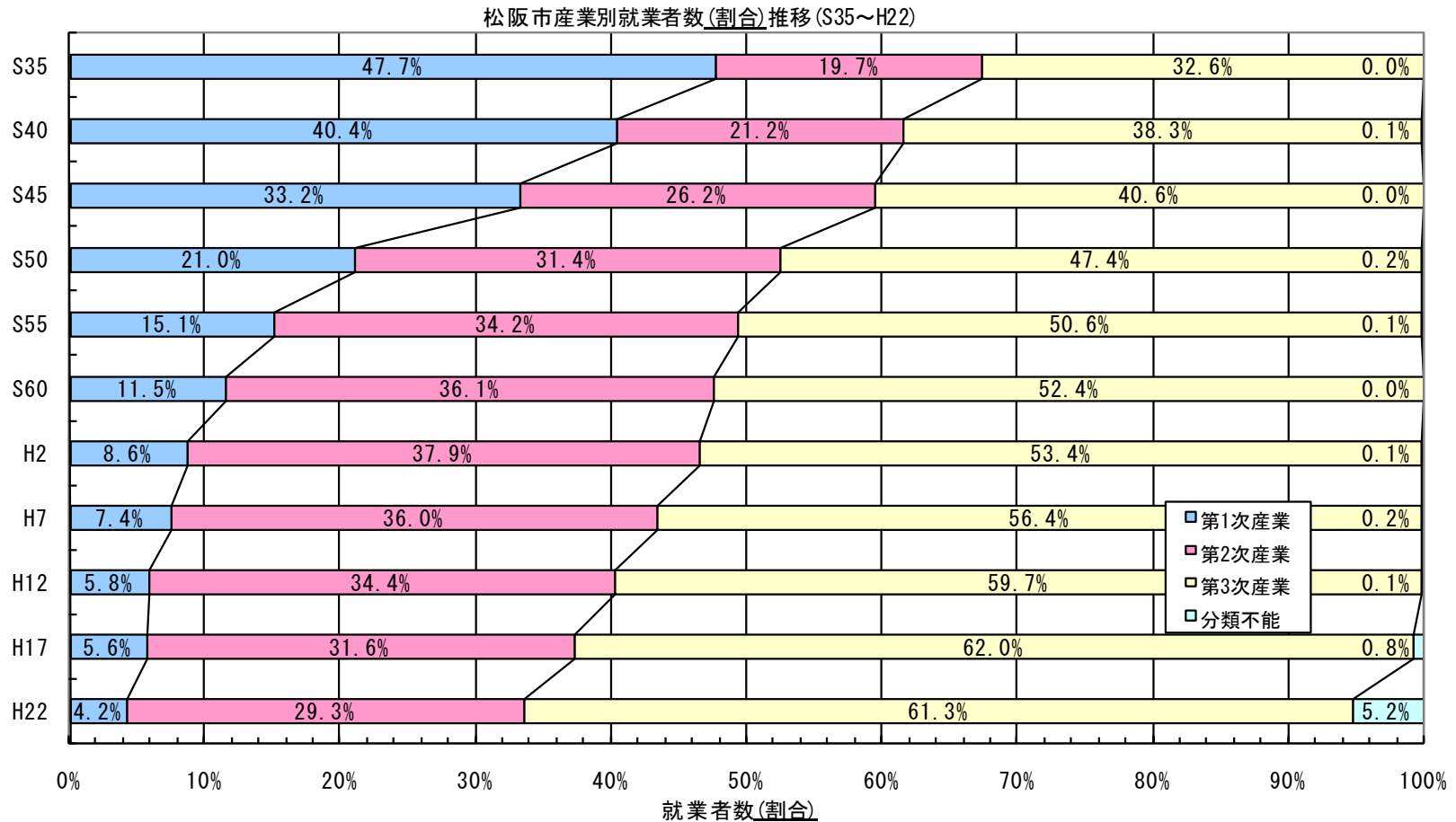
出典：S35～H22三重県統計書（三重県HP）、H27国勢調査は人口速報集計（総務省HP）のデータにより作成
 松阪市（旧松阪市、旧嬉野町、旧三雲町、旧飯南町、旧飯高町の1市4町 H17.1.1合併）



産業別就業者数(割合)

産業別就業者数の割合の変化 (S35→H22)

- ✓ 第1次産業：約48%→約4%に減少
- ✓ 第2次産業：約20%→約29%に増加
- ✓ 第3次産業：約33%→約61%に増加

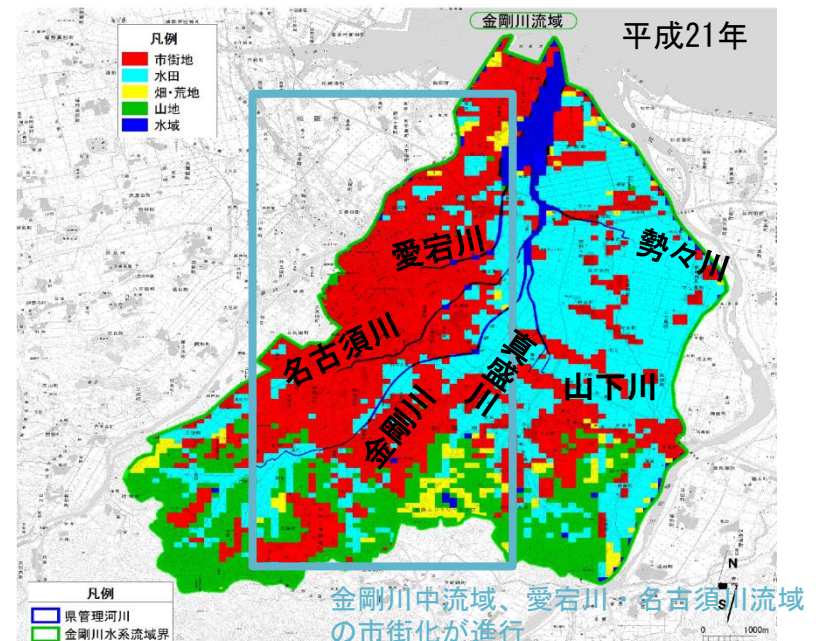
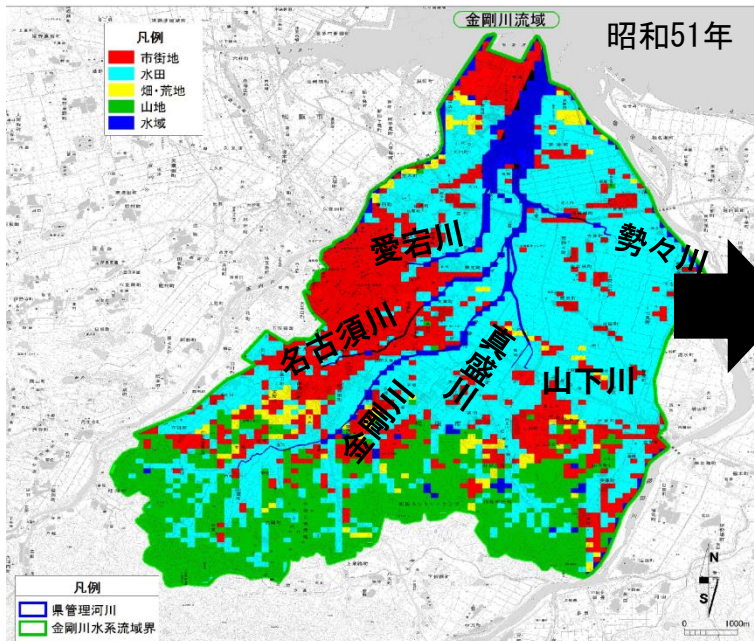
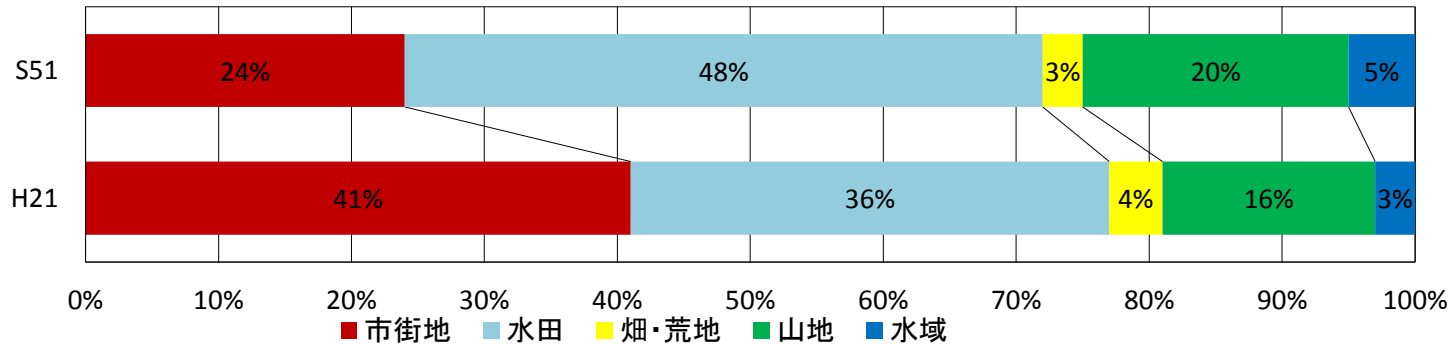


出典：S35~H22三重県統計書（三重県HP）、H27国勢調査は人口速報集計（総務省HP）のデータにより作成
松阪市（旧松阪市、旧嬉野町、旧三雲町、旧飯南町、旧飯高町の1市4町 H17.1.1合併）

流域の土地利用

□ 市街地面積：24% (S51) → 41% (H21) に増加 (+17%)

□ 水田面積：48% (S51) → 36% (H21) に減少 (-12%)

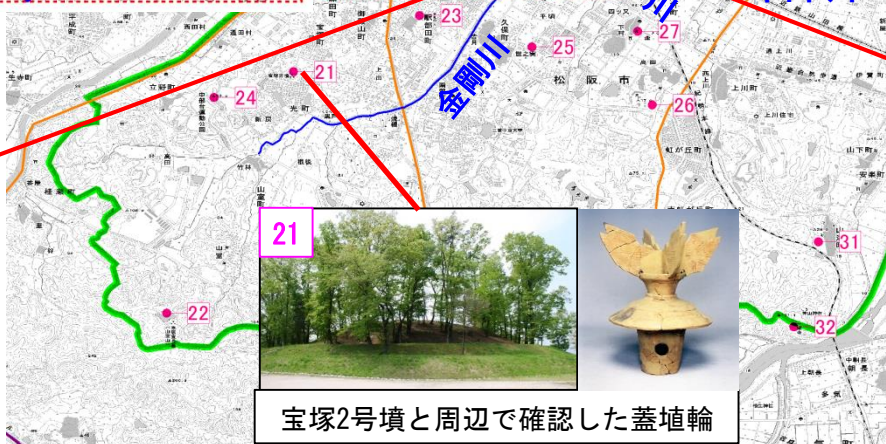
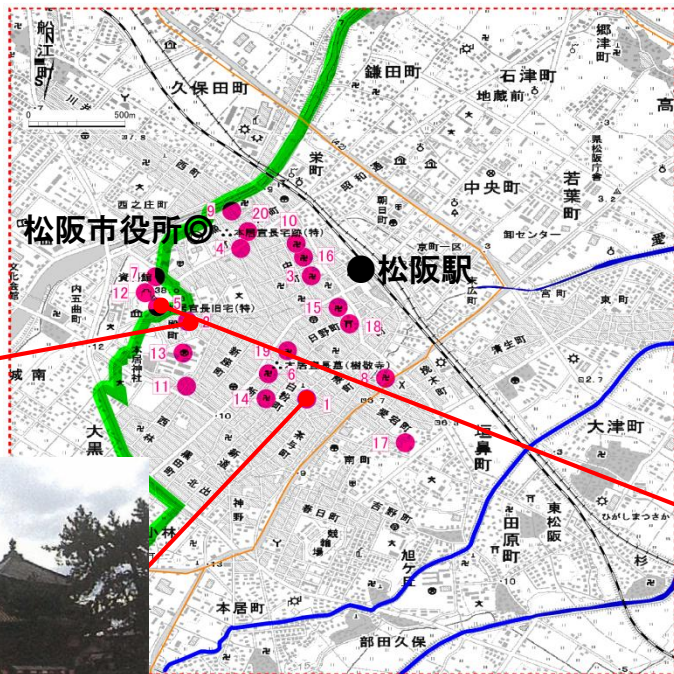
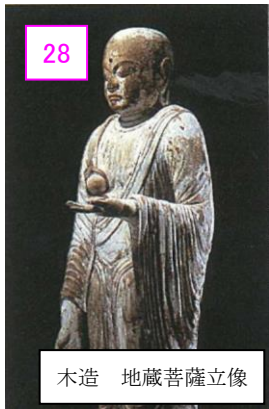
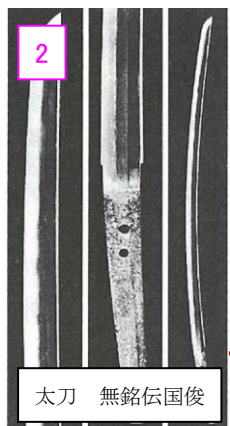


流域の土地利用状況（地目別面積の割合）

出典：国土数値情報土地利用細分メッシュデータより作成



指定文化財（国、三重県、松阪市指定）：74点



流域の指定文化の位置図



5. 現状と課題 (治水、利水、環境)



■ 金剛川水系の治水(主要洪水の概要)

- 昭和52年以降、外水氾濫による水害は発生していない
- 平成16年9月出水では時間雨量98mmを記録

年	主要洪水名	水害発生要因	浸水家屋数 (棟)	倒壊家屋数 (棟)	降雨量(津気象台)		備考
					時間雨量 (mm)	確率 (時間雨量)	
昭和42年	台風第34号 (10.27-28)	名古屋川破堤 (その他 内水)	1,597	246	43.8	1/3	
昭和46年	台風23、25、26号及び 秋雨前線豪雨(8.27-9.13)	金剛川破堤	1,691	2	57.0	1/7	
昭和47年	豪雨及び台風第20号 (9.6-19)	内水	243	0	35.0	1/2	
昭和51年	台風第17号と豪雨 (9.7-9.14)	愛宕川・名古屋川 (無堤部浸水)	201	0	47.5	1/4	
昭和57年	豪雨、落雷、風浪と 台風第10号(7.5-8.3)	内水	58	0	32.5	1/2	
	豪雨と台風第18号 (9.10-9.13)	内水	2	0	27.0	1/1	
昭和58年	豪雨 (10.8-10.9)	内水	6	0	30.5	1/2	
平成元年	豪雨、台風17号 (8.24-8.29)	内水	7	0	61.5	1/9	
	豪雨、落雷 (8.31-9.16)	内水	68	0	43.5	1/3	
平成 2年	集中豪雨 (11.4)	内水	204	0	24.5	1/1	準用河川の被害
平成 7年	豪雨 (5.10- 5.16)	内水	23	0	31.0	1/2	
平成11年	豪雨(4.9-4.11)	内水	4	0	57.0	1/7	
平成12年	豪雨及び台風14号 (9.8-9.18)	内水	43	0	27.5	1/1	
平成16年	台風21号(9.28-10.1)	内水	11	0	98.0	1/60	準用河川の被害
			241	0			
平成26年	台風12号・11号及び豪雨 (7.29-8.12)	内水	13	0	39.5	1/3	

出典：水害統計（S39～H26）

※浸水家屋数は床下・床上含む

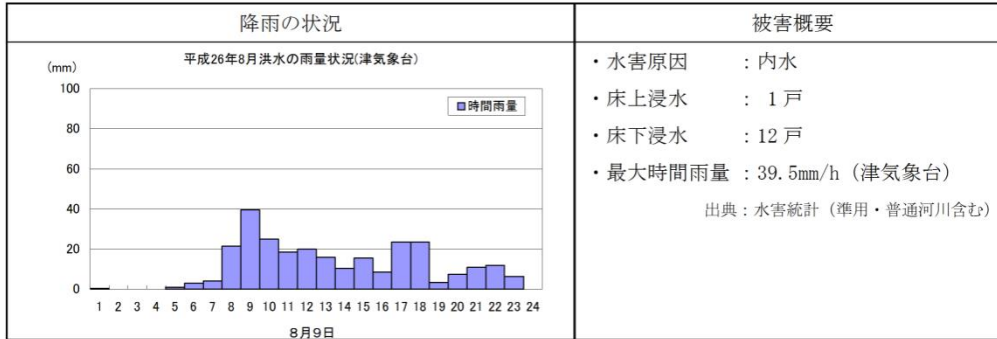
確率評価（時間雨量）：三重県の降雨強度式（H17.3）による津観測所の60分確率雨量より算定



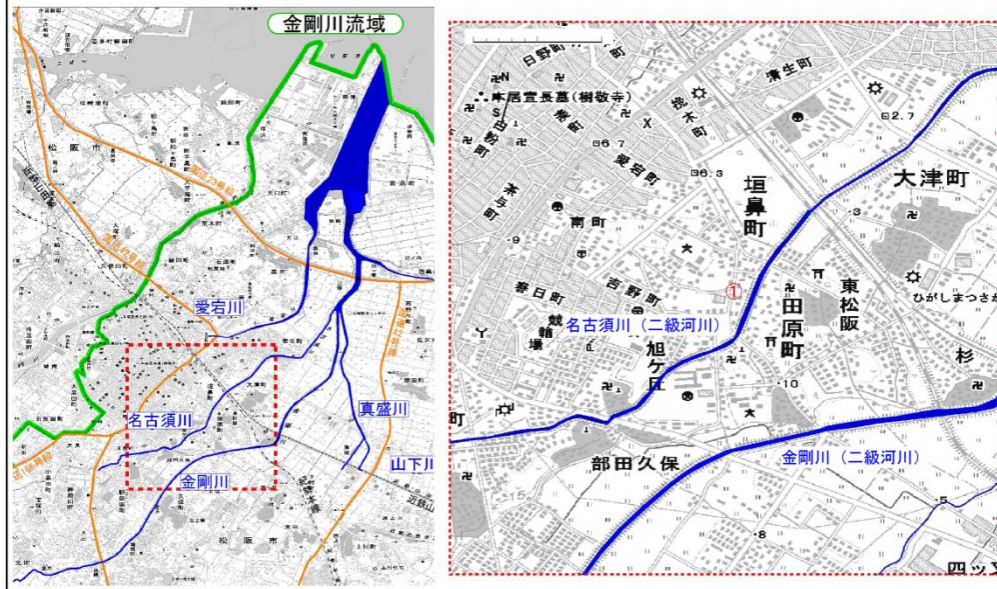
■ 金剛川水系の治水(近年出水による浸水被害)

参考(名古須川:県管理区間)

平成26年8月洪水(台風11号)



浸水状況



松阪市垣鼻町付近

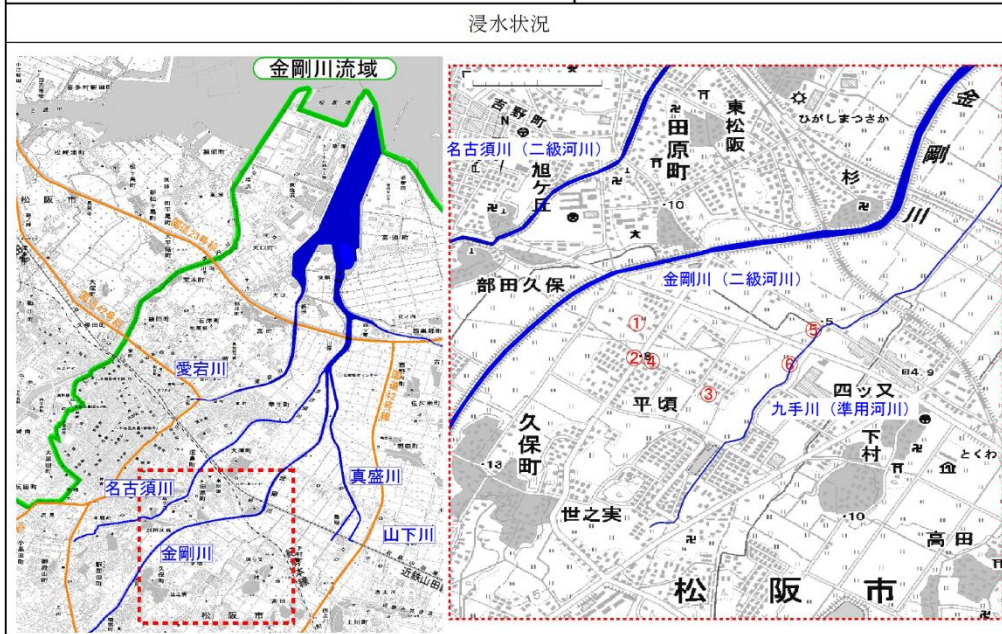
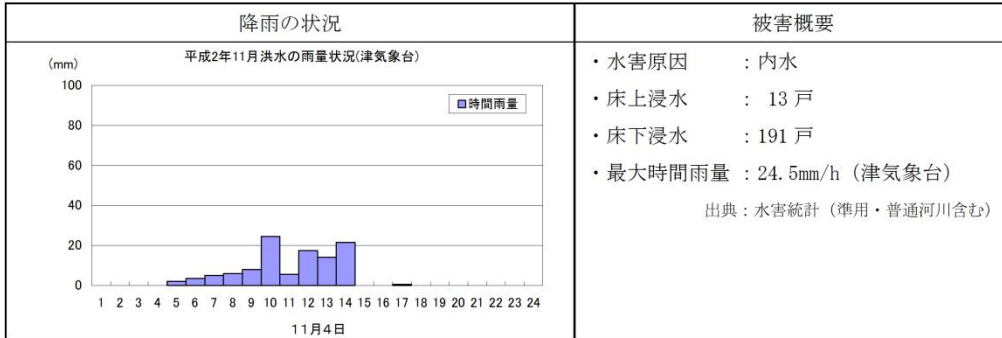
写真提供 : 松阪市



■ 金剛川水系の治水(近年出水による浸水被害)

参考(真盛川支川九手川:準用河川区間)

平成2年11月洪水(集中豪雨)



松阪市久保町付近の状況



準用河川九手川と県道756号が交差する付近の状況

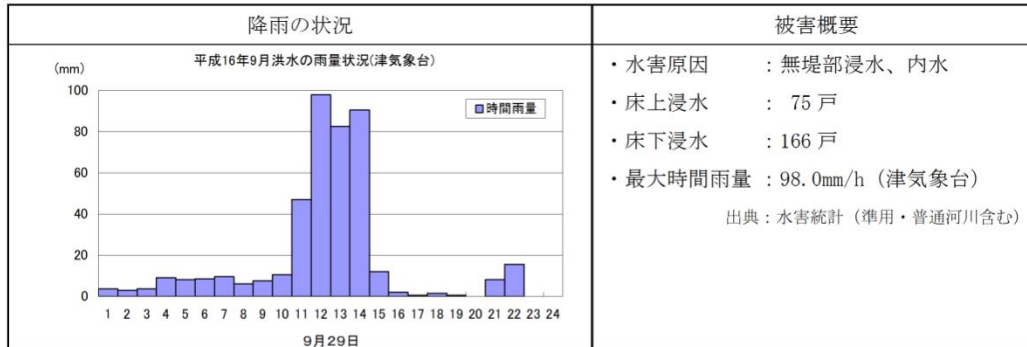
写真提供: 松阪市



■金剛川水系の治水(近年出水による浸水被害)

参考(真盛川:準用河川区間)

平成16年9月洪水(台風21号)



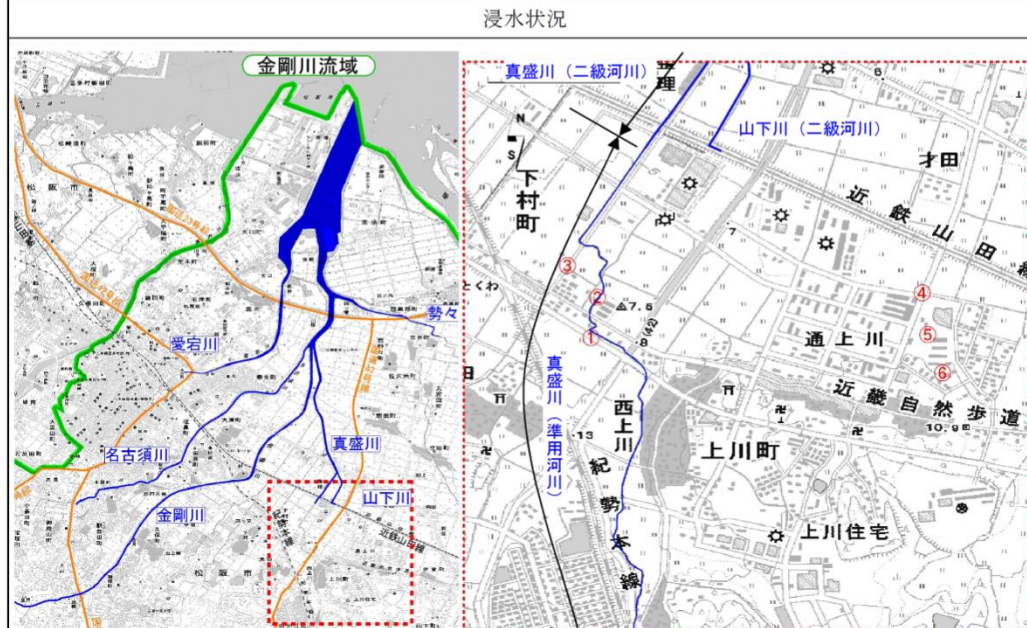
松阪市上川町(上川町交差点)付近



松阪市上川町(市営高田団地)付近



松阪市上川町付近



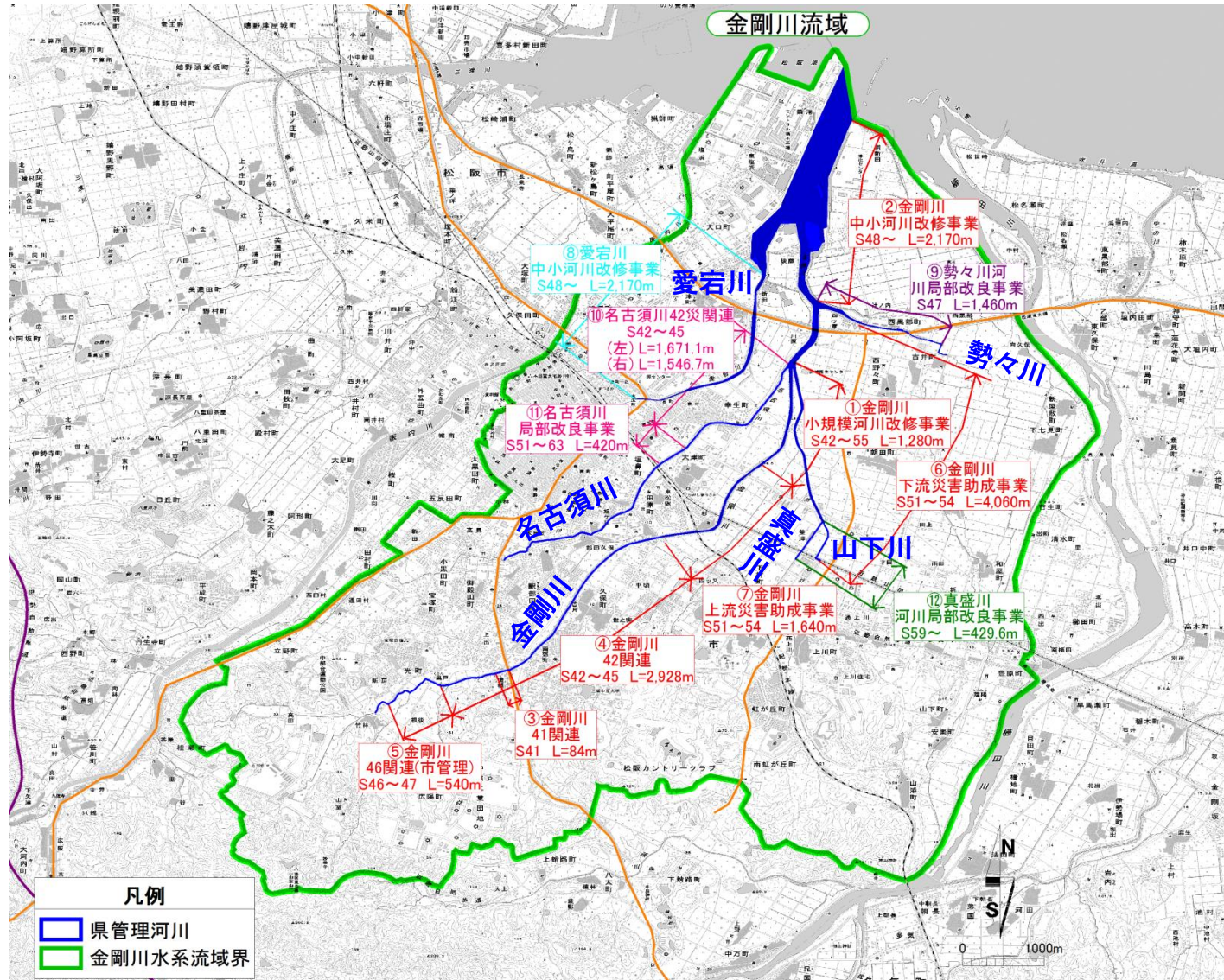
松阪市上川町(雇用促進住宅)付近

写真提供: 松阪市

■ 金剛川水系の治水(河川の整備状況)



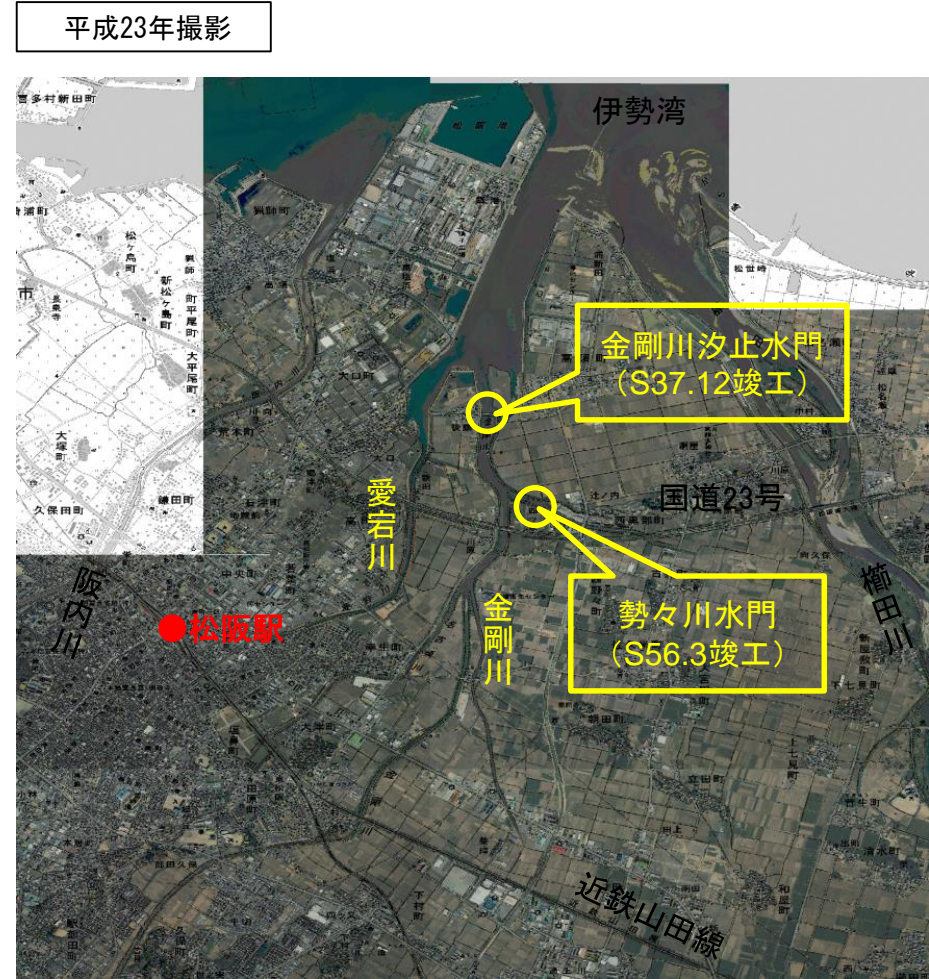
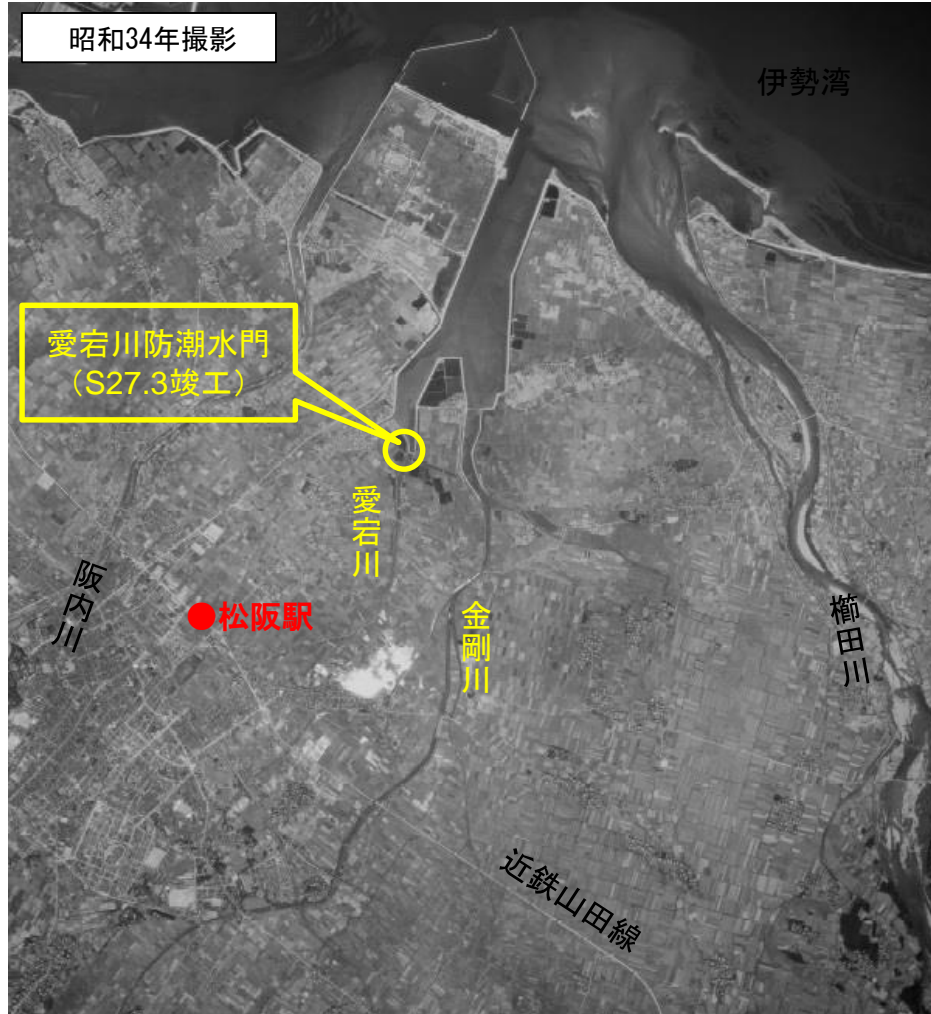
□ 金剛川水系における河川工事は、昭和42年の災害復旧を契機に、昭和63年にかけて改良復旧事業や中小河川改修事業等を実施





■ 金剛川水系の治水(河川の整備状況)

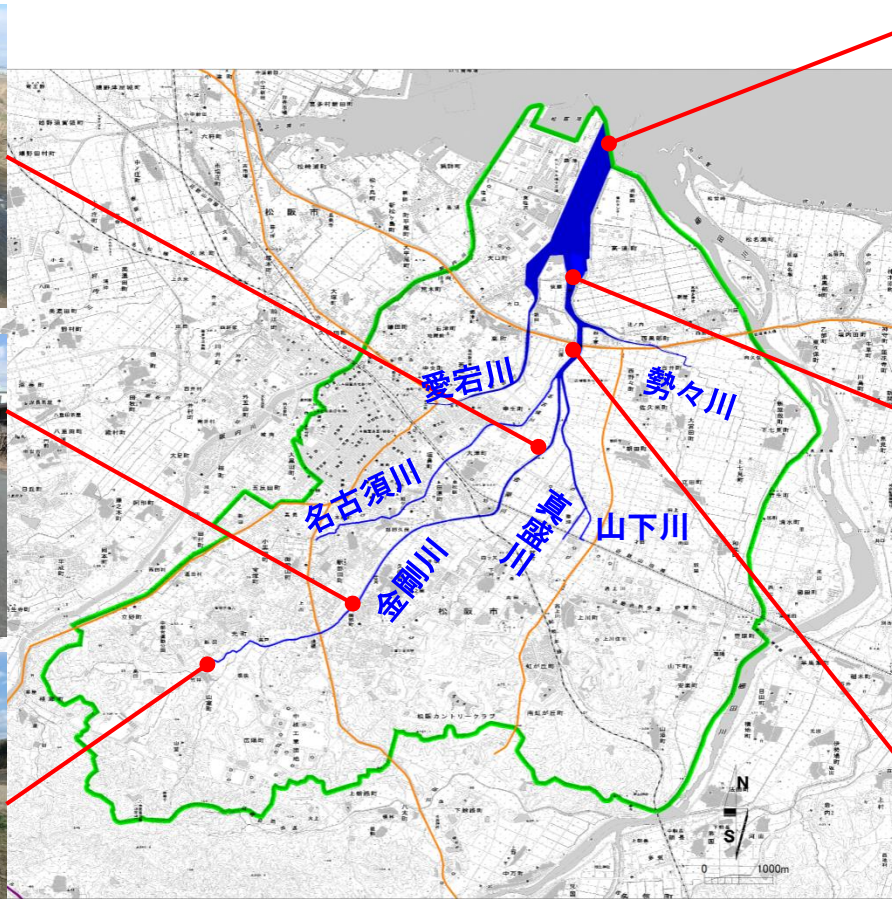
- 愛宕川防潮水門は昭和27年に金剛川汐止水門は昭和37年に、勢々川水門は昭和56年に竣工された。
- 河川法線に大きな変化はないが、金剛川中流部の河道は拡幅されているのが確認できる。
- 愛宕川の水門はS34以前に築造されたことが確認できる。





■ 金剛川水系の治水(河川の概況: 金剛川)

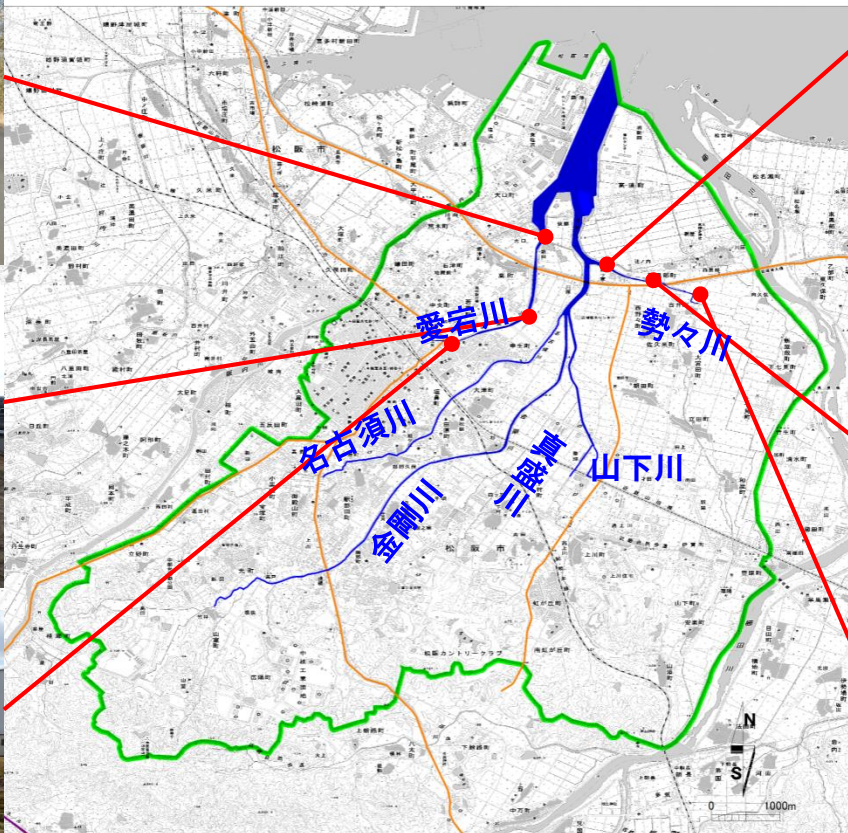
- 河口付近の堤防は特殊堤 (パラペット) で整備されている (写真①)。
- 名古屋須川・真盛川合流点を境界として、下流の河床勾配は1, /1500~1/2, 000と比較的緩く、上流の河床勾配は1/300~1/500と急勾配である。
- 中流~上流域には取水施設 (堰) が12基存在する (写真④)。
- 現況の治水安全度は概ね1/5程度である。



■ 金剛川水系の治水(河川の概況: 愛宕川・勢々川)



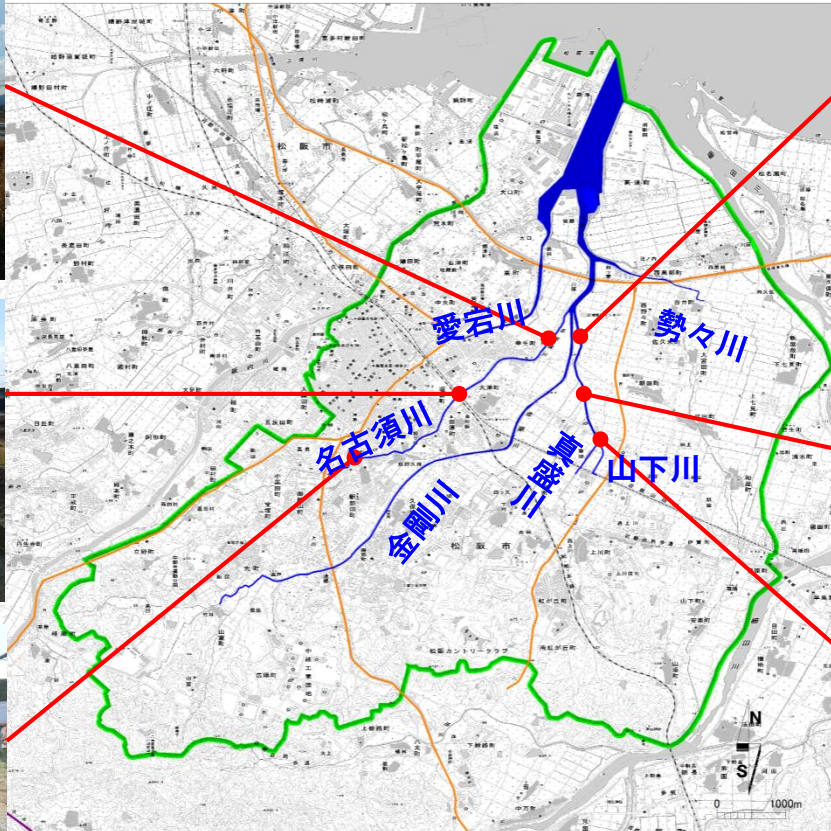
- 愛宕川の左岸側の河口付近と、右岸側の愛宕川防潮水門から国道23号までの堤防は特殊堤(パラペット)で整備されている(写真①)。
- 勢々川は一部上流区間を除いて河道が整備されている(写真④⑤⑥)。
- 愛宕川、勢々川の河床勾配は1/2,000程度と比較的緩い。
- 現況の治水安全度は愛宕川で概ね1/5~10、勢々川で1/2未満である。





■ 金剛川流域の治水(河川の概況: 名古屋須川・真盛川)

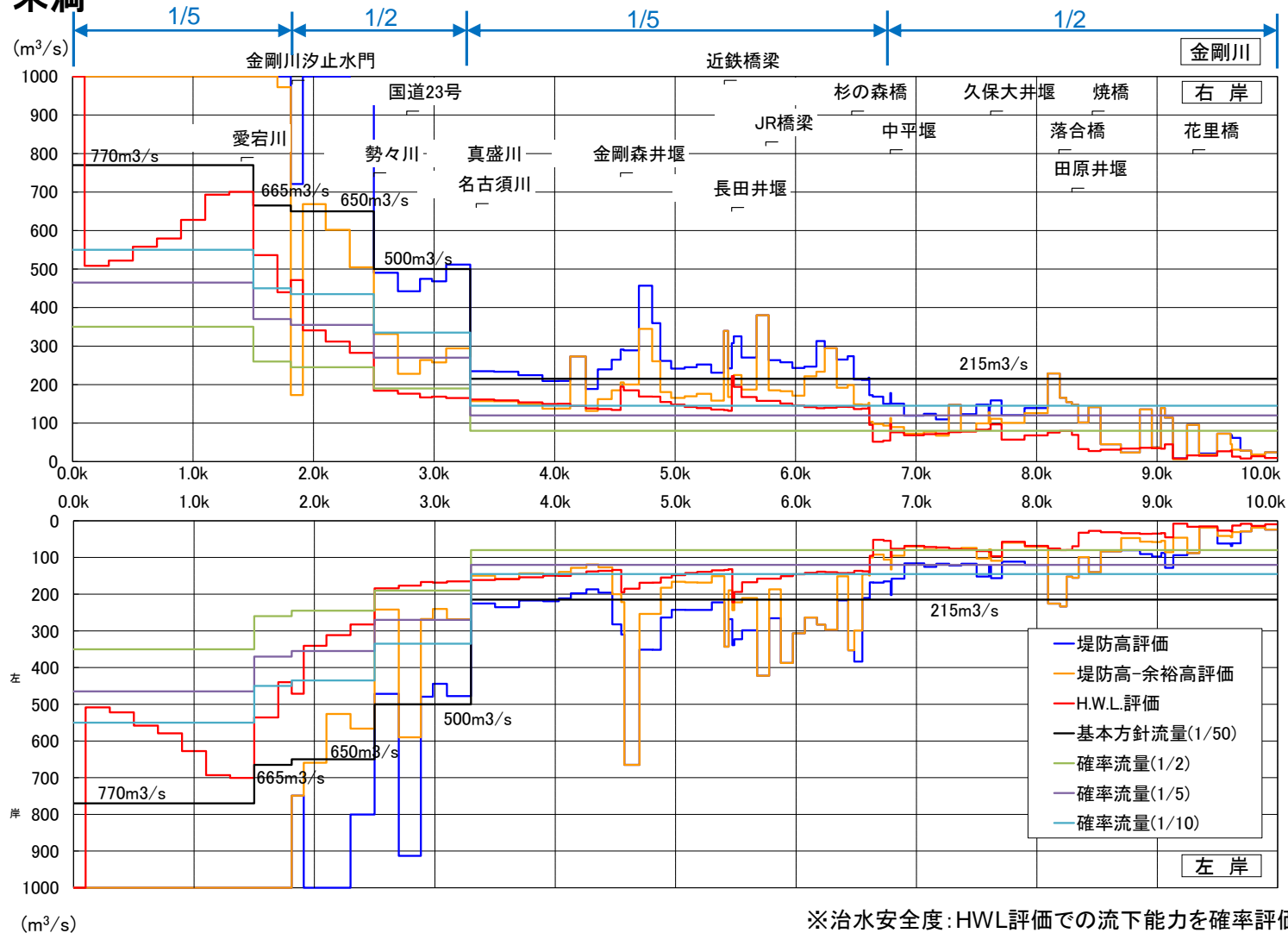
- 名古屋須川、真盛川はコンクリート護岸が整備されている(写真①~⑥)。
- 名古屋須川の河床勾配は1/500程度で比較的急勾配である。
- 真盛川の河床勾配は1/5,000程度と緩い。
- 現況の治水安全度は、名古屋須川・真盛川ともに1/2未満である。





■ 現況流下能力(金剛川)

- 下流域の河口～金剛川汐止水門と、上流域の名古須川・真盛川合流点～中平堰 (6.7K) の治水安全度は概ね1/5
- 金剛川汐止水門～名古須川・真盛川合流点、中平堰より上流区間の治水安全度は概ね1/2未満



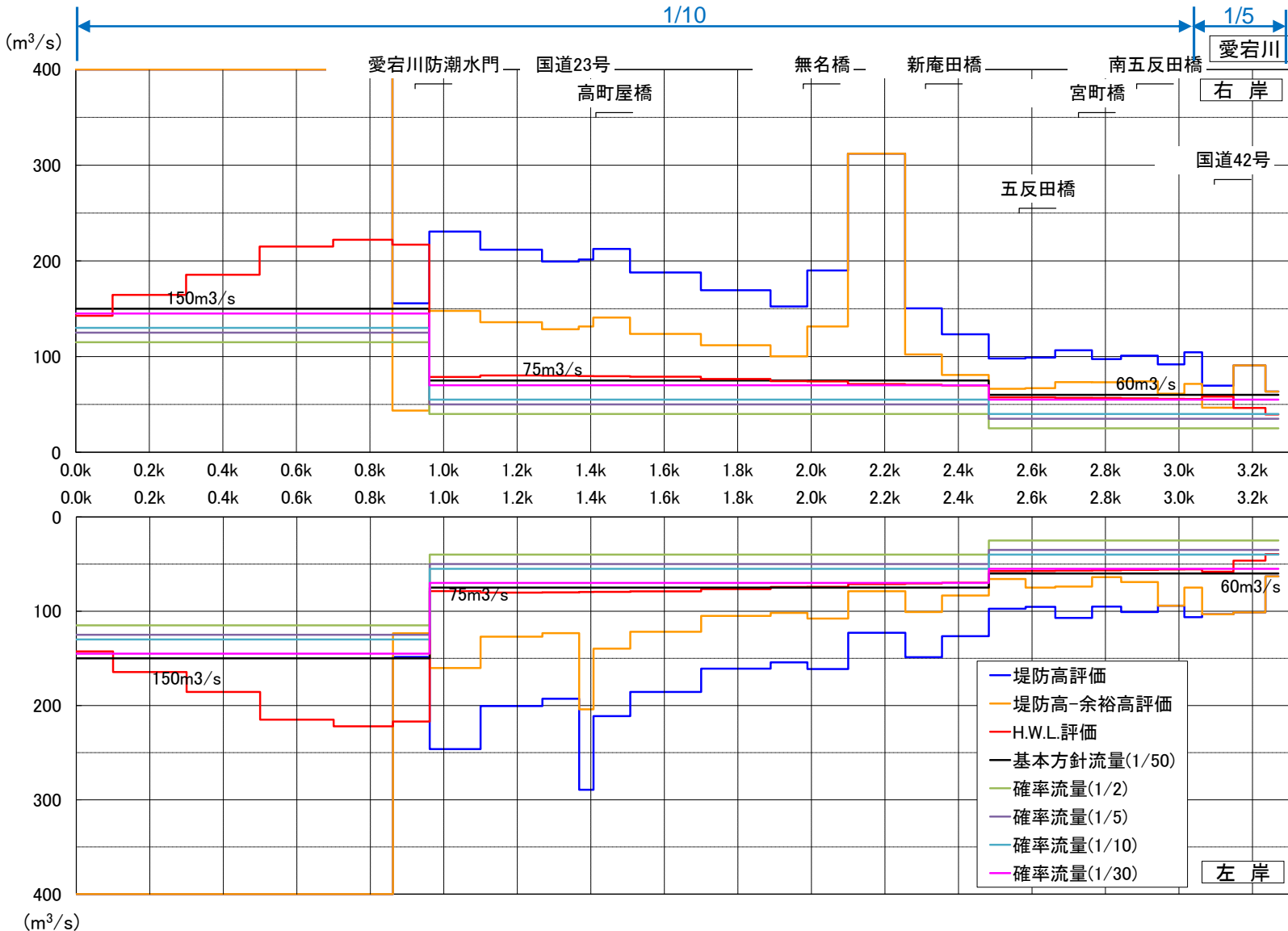
※治水安全度:H.W.L.評価での流下能力を確率評価



■ 現況流下能力(愛宕川)

□ 金剛川合流点～国道42号の治水安全度は概ね1/10

□ 国道42号付近の治水安全度は概ね1/5



※治水安全度:HWL評価での流下能力を確率評価

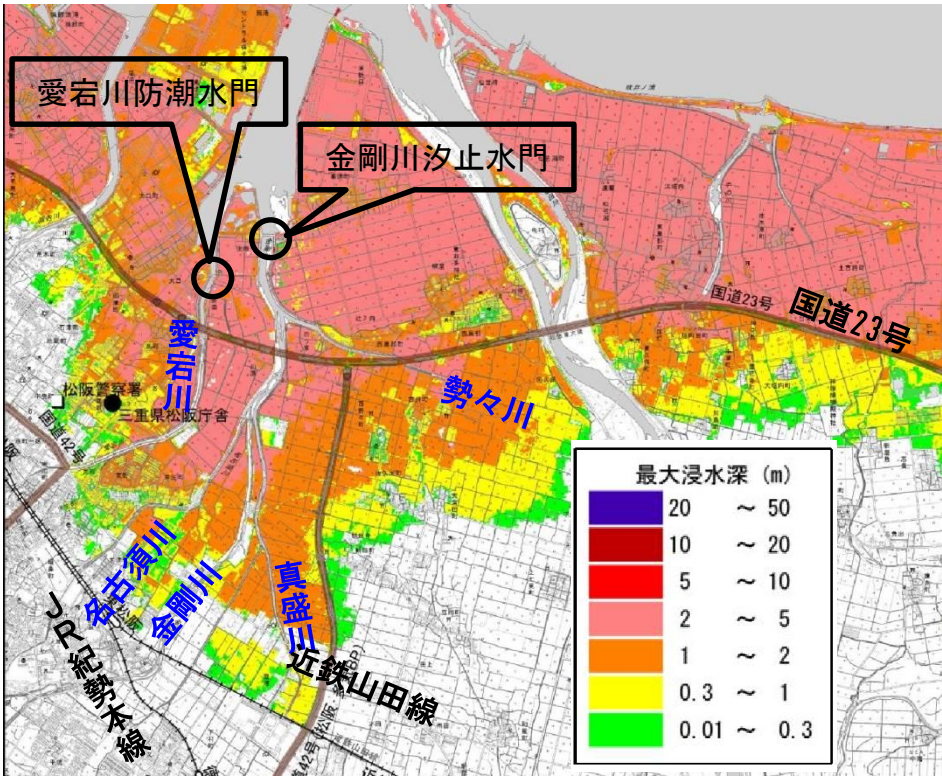
■ 金剛川流域の治水(地震・津波対策の状況)

◆ 津波高と現況施設高

- **L1津波**※1が発生した場合の津波高T. P+3. 7mである。
- 金剛川汐止水門の高さはT. P+4. 6mである。
- 愛宕川防潮水門の高さはT. P+3. 2mである。
- **L2津波**※2が発生した場合には、河口～国道23号にかけて浸水深2m～5mの浸水が想定される。



※1 L1津波：過去最大クラスの津波（比較的発生頻度が高い津波）
 ※2 L2津波：南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合想定される津波



◆ L2地震動に対する耐震性能照査

- **金剛川汐止水門：耐震性に課題・門柱、堰柱の補強が必要**
- **愛宕川防潮水門：耐震性能あり**

L2津波による浸水想定図

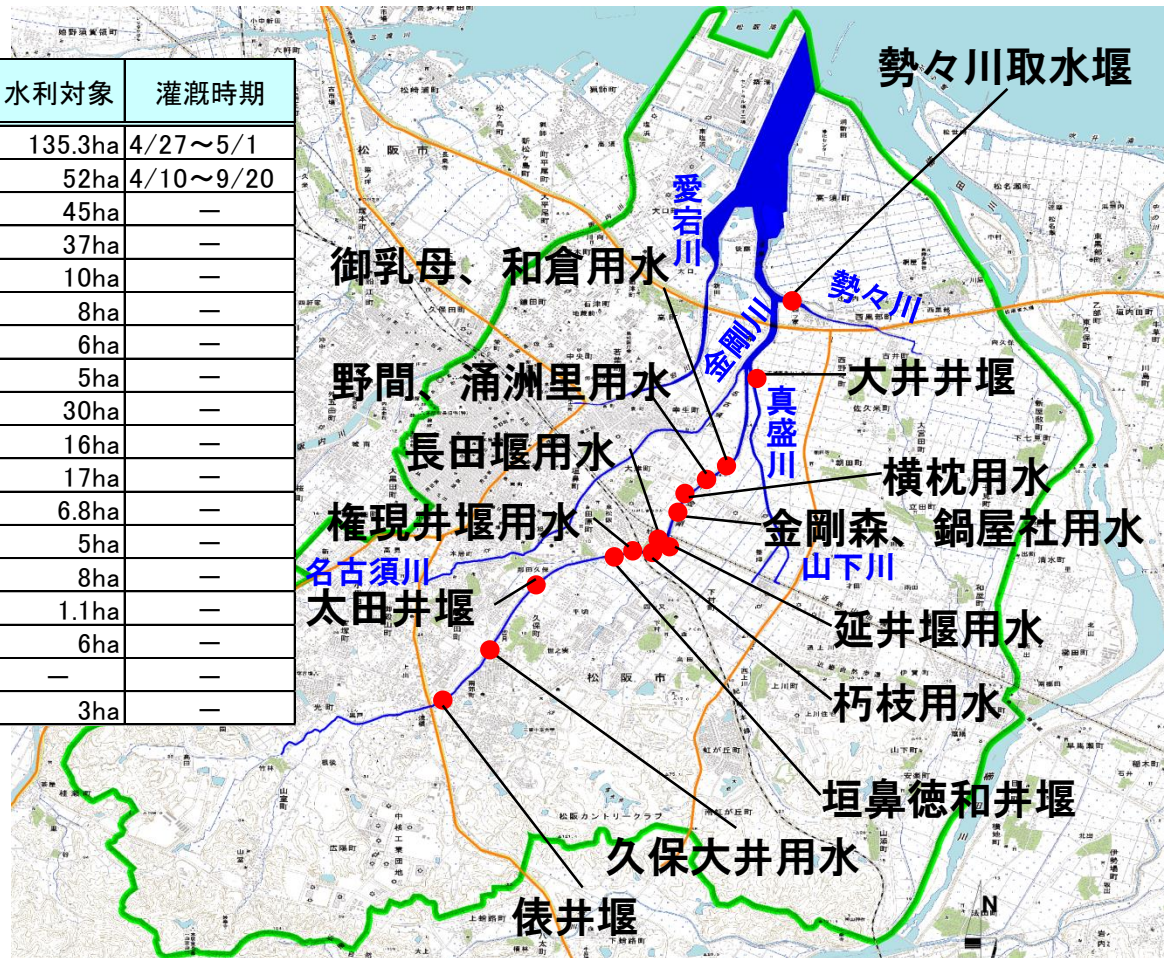
出典：三重県津波浸水想定 (H27.3)



■ 金剛川流域の利水(水利用の現状)

- 金剛川はかつて周辺農地の灌漑用水として重要な役割を果たしていた。
- 水利権として把握できるのは許可水利権2件、慣行水利権の16件である。
- 現地調査・ヒアリングで確認した施設は14件だった。
- 愛宕川は取水施設がなく、水利権も設定されていない。

区分	河川名	井堰名	使用目的	取水量 (m ³ /s)	水利対象	灌漑時期
許可水利権	勢々川	勢々川取水堰	灌漑	0.05	135.3ha	4/27~5/1
慣行水利権	真盛川	大井井堰	灌漑	0.172	52ha	4/10~9/20
慣行水利権	名古須川	名古須上下用水	灌漑	—	45ha	—
	金剛川	久保大井用水	灌漑	—	37ha	—
	金剛川	中手堰	灌漑	—	10ha	—
	金剛川	延のゆり	灌漑	—	8ha	—
	金剛川	俵井堰	灌漑	—	6ha	—
	金剛川	太田井堰	灌漑	—	5ha	—
	金剛川	御乳母、和倉用水	灌漑	—	30ha	—
	金剛川	野間、涌洲里用水	灌漑	—	16ha	—
	金剛川	長田堰用水	灌漑	—	17ha	—
	金剛川	横枕用水	灌漑	—	6.8ha	—
	金剛川	金剛森、鍋屋社用水	灌漑	—	5ha	—
	金剛川	朽枝用水	灌漑	—	8ha	—
	金剛川	権現井堰用水	灌漑	—	1.1ha	—
	金剛川	延井堰用水	灌漑	—	6ha	—
	金剛川	二本松井堰	灌漑	—	—	—
	金剛川	垣鼻徳和井堰	灌漑	—	3ha	—



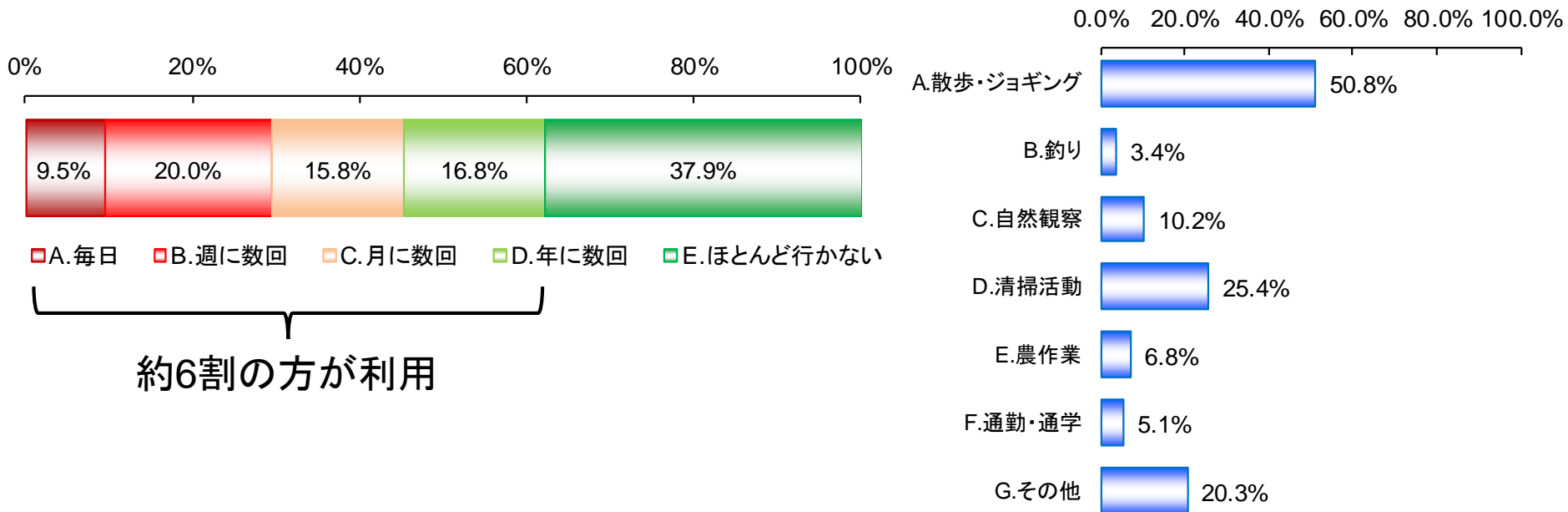


■金剛川流域の利水(河川空間の利用状況)

- 平成12年のアンケート調査では、3割の人が金剛川を利用し、利用目的は「農業用水」が最も多かった。特に金剛川を利用しない人は7割いた。
(平成12年河川環境管理基本計画住民意識調査より)

【今年度結果】

- 9月のアンケート調査結果では、3割の人が週に数回以上金剛川に行くと回答された。
- 金剛川にほとんど行かない人が最も多く約4割いたが、平成12年よりは割合が低く、河川利用が促進された。
- 金剛川の利用状況を見ると、利用者の半数が散歩・ジョギングを利用目的としており、次いで清掃活動の割合が多い結果となった。



■金剛川水系の環境(植生)



(平成12年河川環境管理基本計画自然環境調査、平成28年現地踏査より)

- 河道内で確認した植物種はミゾソバ、ヨモギ、クズなど49科114種、重要種はハマボウ、ウラギク、ハママツナの3種、外来種はオオフサモ、セイタカアワダチソウ、シナダレスズメガヤなど12種であった。
- 周辺地域では**ハマサジ、フクド、アイアシ**など**51種**の重要種が生育していた。

①河口域～下流域まで

ヨシ群落以外ほとんどなく、重要種はハマボウ、ウラギク、ハママツナが小規模に生育していた。



ハマボウ



湿性高茎草本群落

②中流域～上流域区間

河道内に湿生草本群落、堤防上に草地在り分布。ササ・タケ群落広がる区間もあった。



堤防草地、湿生草本群落



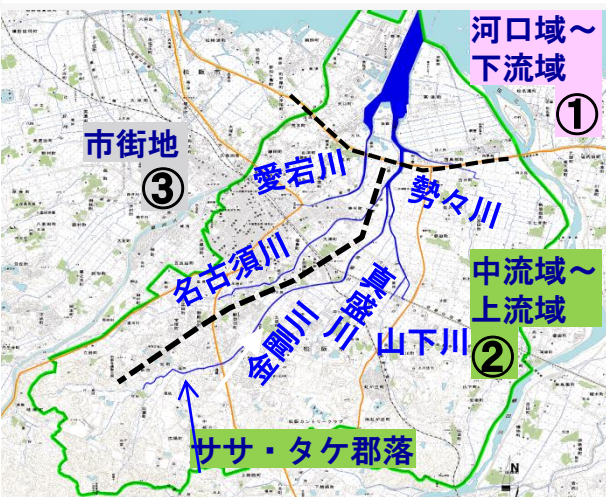
ササ・タケ群落

③市街地流域

支川の愛宕川、名古屋須川の中流域から上流域は、市街地のため植生はあまりない。



名古屋須川上流域

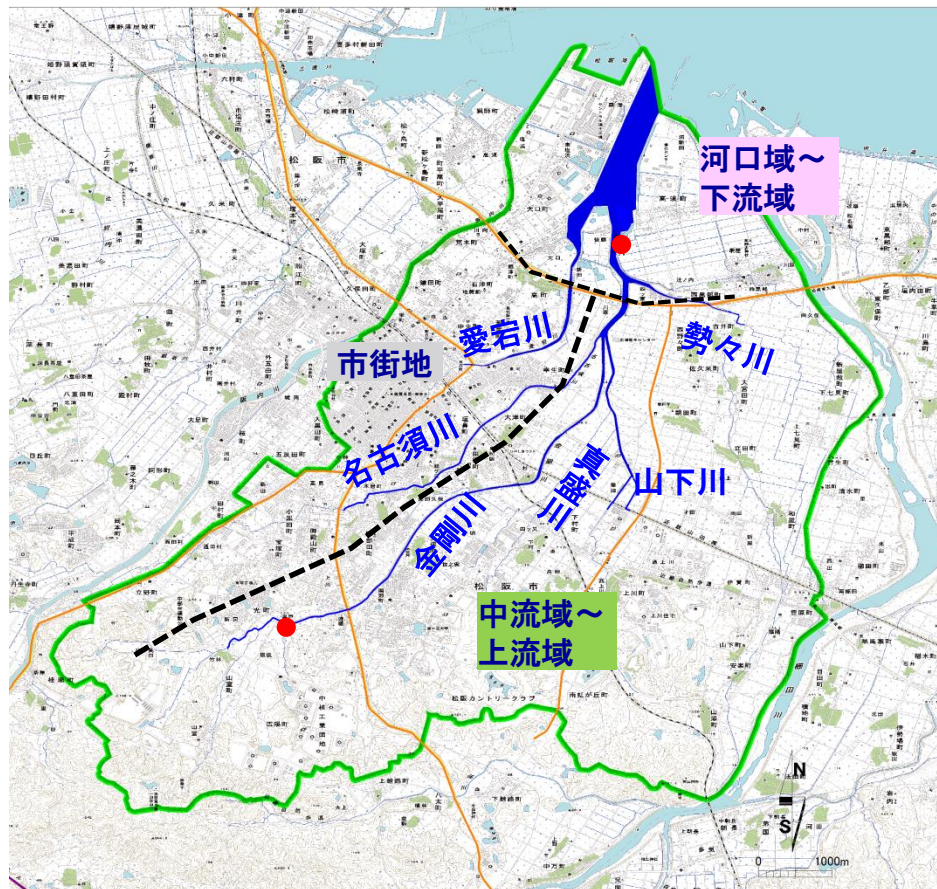
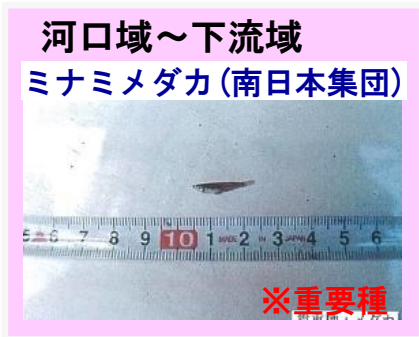


■金剛川水系の環境(魚類)



(平成12年河川環境管理基本計画自然環境調査、三重県RLより)

- 金剛川下流域の昭和橋周辺および上流域の花里橋周辺の2地点で調査が行われ、オオクチバス、コイなど9科10種の魚類が確認されている。
- 環境省の第4次レッドリストで、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されたミナミメダカ(南日本集団)と情報不足(DD)に指定されたドジョウを確認した。周辺地域では、**カジカなど6種**の重要種が確認されている。
- 外来種として、オオクチバスが確認されている。





【鳥類】

(平成12年河川環境管理基本計画自然環境調査、平成28年現地踏査より)

- 金剛川では、カワウなど53種の鳥類が確認されている。河口域では水鳥が多く、シロチドリ、コアジサシなどの重要種も干潟を利用している。
- 上流域では、オオタカなども確認されているが鳥類相はやや貧弱である。
- 周辺地域では**ハヤブサ、ヨシゴイ**など**31種**の重要種を確認した。

【哺乳類・両生類・爬虫類】

- 周辺地域では、**ニホンリス、ダルマガエル、ニホンヒキガエル、シロマダラ、イシガメ**が確認されている。



コアジサシ



シロチドリ

【昆虫類】

- 金剛川では、シオカラトンボ、アオスジアゲハ、アミメアリなど133種の昆虫類が確認されており、平野部の河川敷でよくみられる種が多い。
- 重要種はキアシハナダカバチモドキ(環境省：V U、三重県：D D)、アキアカネ(三重県：N T)の2種だった。
- その他の重要種の確認ではギンイチモンジセセリ、ツマグロキチョウ、キノボリトタテグモなど**23種**が確認されている。

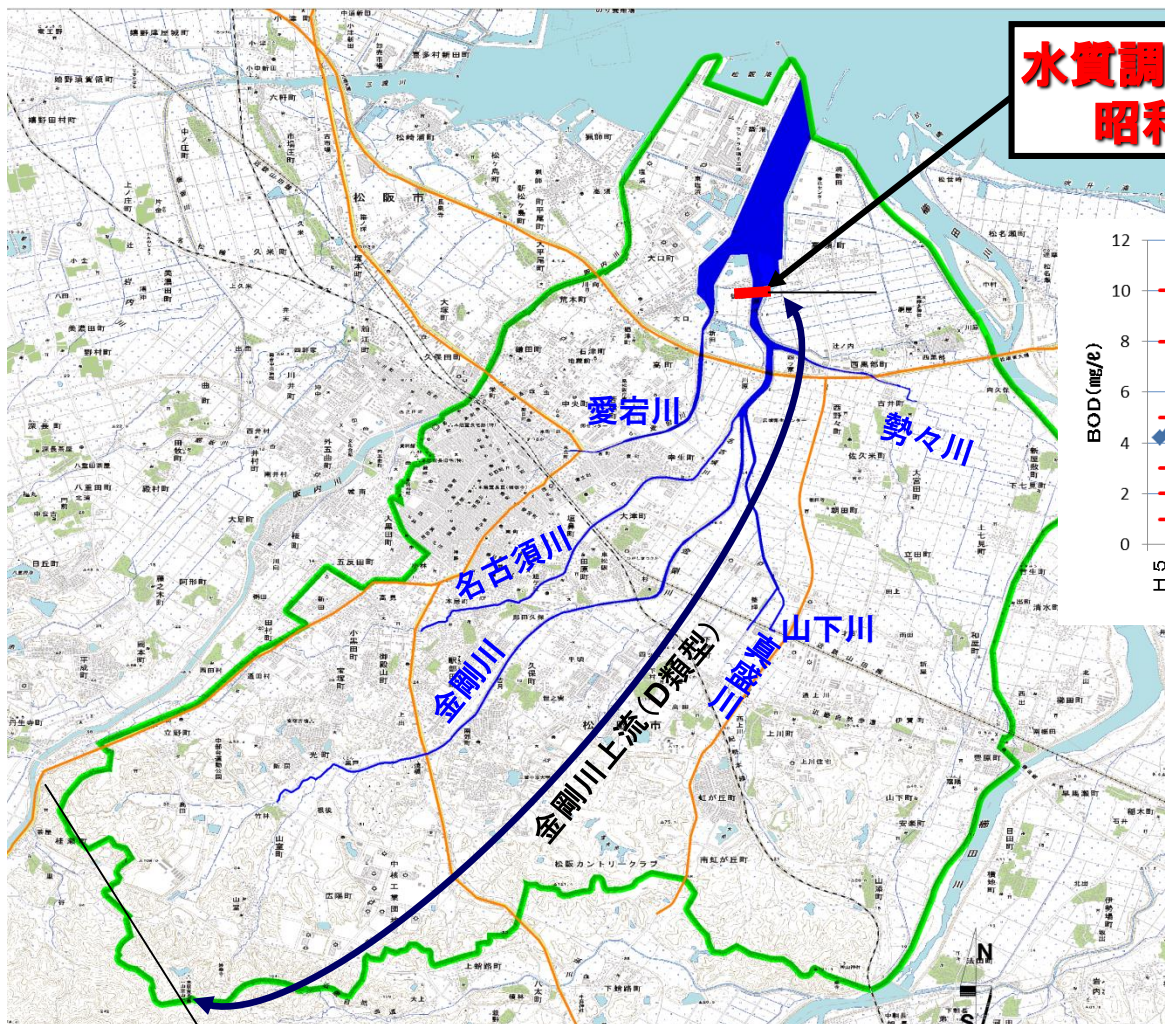
【底生動物】

- 金剛川では、アメンボなど35種の底生動物が確認されている。
- かなり汚濁した水域を指標する種が多いが、重要種としてアリアケモドキ(三重県：V U)、ヤマトシジミ(三重県：D D)を確認した。
- その他の重要種の確認ではイシガイなど17種が確認されている。

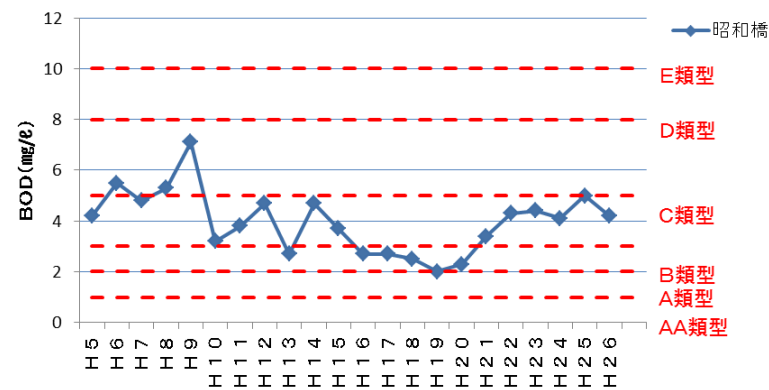
■ 金剛川水系の現状と課題



- 金剛川では、昭和橋より上流でD類型の類型指定がされている。
- 金剛川における水質調査は昭和橋で行っており、BOD値（年75%値）は変動があるものの、C～D類型相当であり、概ね類型指定された水質を満足できている。



**水質調査地点
昭和橋**



出典：H5～H9：平成12年度二級河川金剛川
他10水系22河川 河川環境管理基本計画策
定業務 報告書、H10、H11三重県データ、
H12～H26：三重県HP



項目	現状	課題
洪水	<ul style="list-style-type: none"> ● 内水による被害が発生している。 ● 金剛川、愛宕川は改修が進んでおり流下能力が比較的高い。特に愛宕川は一部を除いて治水安全度1/10程度確保されているが、他の河川は護岸整備などが実施されているものの、流下能力は小さく、安全度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金剛川、愛宕川については、現況の流下能力を維持するため、堆積土砂、植生の撤去等の適切な維持管理が必要 ● 各種工事においては、史跡への配慮が必要
津波高潮	<ul style="list-style-type: none"> ● 金剛川汐止水門は昭和37年に整備されており、建設後長い年数が経過しているため、老朽化が進んでいるほか耐震性能を有していない。 ● 愛宕川防潮水門は昭和27年に整備されており、建設後長い年数が経過しているため老朽化が進んでいるが、耐震性能を有していることが確認されている。 ● L2津波が発生した場合には浸水被害が生じることが想定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金剛川汐止水門は治水上重要な施設であり、地震後の津波や高潮による被害を軽減するために、L2地震動に対する補強が必要
河川利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 許可、慣行の水利権があり、かんがい用水として利用されている。 ● かんがい用水以外の水利用は確認されていない。 ● 散歩・ジョギングなどの場として地域の方々に利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利水施設の適切な管理が必要
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 水門より下流には、ハマボウ等の重要な植物が生育している。流水区域ではヨシや低茎草本群落が生育している。 ● ミナミメダカ、ドジョウなどの重要種、外来種であるオオクチバスが確認されている。 ● 河川水質はC類型程度であり、環境基準(D類型)は満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物に配慮した環境を保全並びに今後、河道内の植生等の環境の復元が必要 ● 特定外来種の移入回避及び駆除が必要 ● 現在の水質の維持管理、改善が必要



6. 河川整備基本方針の概要



□ 治水の目標

- ✓ 河川整備基本方針における目標は、河川の重要度指標（流域面積、氾濫想定区域内資産額など）や、県内他河川とのバランスから**年超過確率1/50**とする。
- ✓ なお、既定計画（工事実施基本計画）でも**年超過確率1/50**としている。

三重県における基本方針計画規模の評価指標

		金剛川水系	1/30以上	1/50以上	1/80以上	1/100以上
流域面積 (km ²)		51	20未満	20～300	300～600	600以上
市街地面積(km ²)		21	10未満	10～20	20～50	50以上
想定氾濫区域内	面積(ha)	1,091	500未満	500～2,000	2,000～4,000	4,000以上
	宅地面積(ha)	264	80未満	80～240	240～1,000	1,000以上
	人口(千人)	9.4	10未満	10～30	30～100	100以上
	資産額(億円)	1,990	200未満	200～2,000	2,000～5,000	5,000以上
	出荷額(億円)	439	100未満	100～1,000	1,000～3,000	3,000以上



□ 基準地点

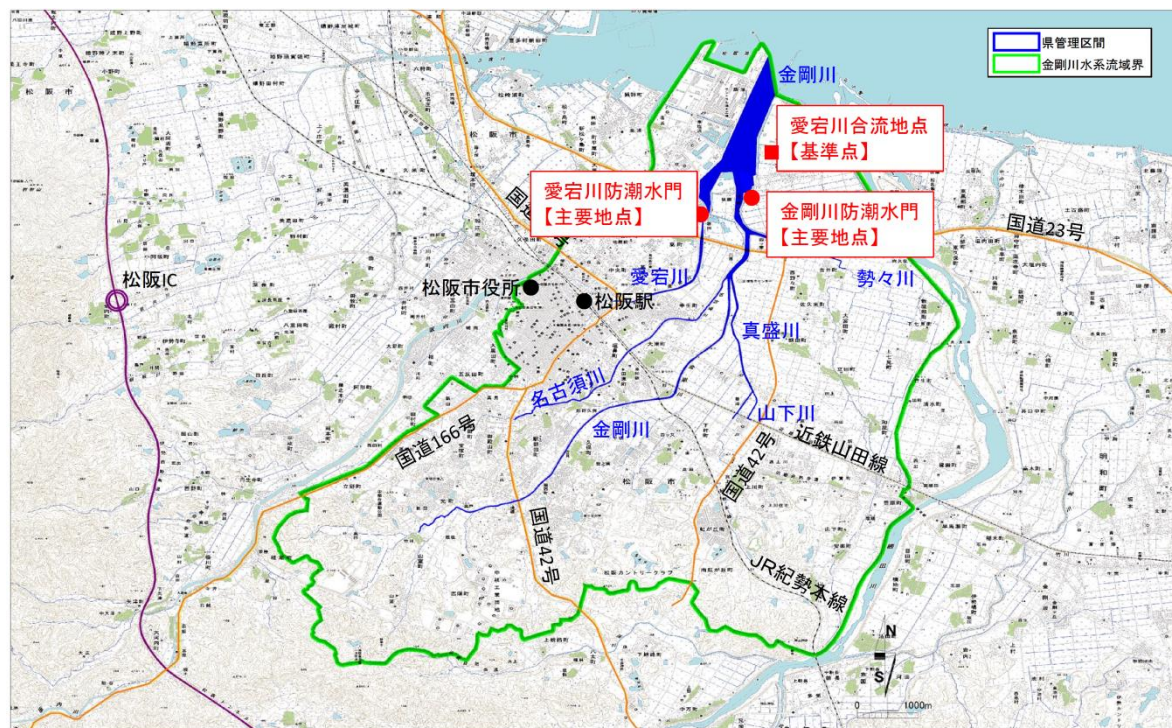
✓ 「愛宕川合流点」とする

— 金剛川水系の最下流端であり水系の流量を把握できる地点であるため

□ 主要地点

✓ 「金剛川汐止水門」、「愛宕川防潮水門」とする

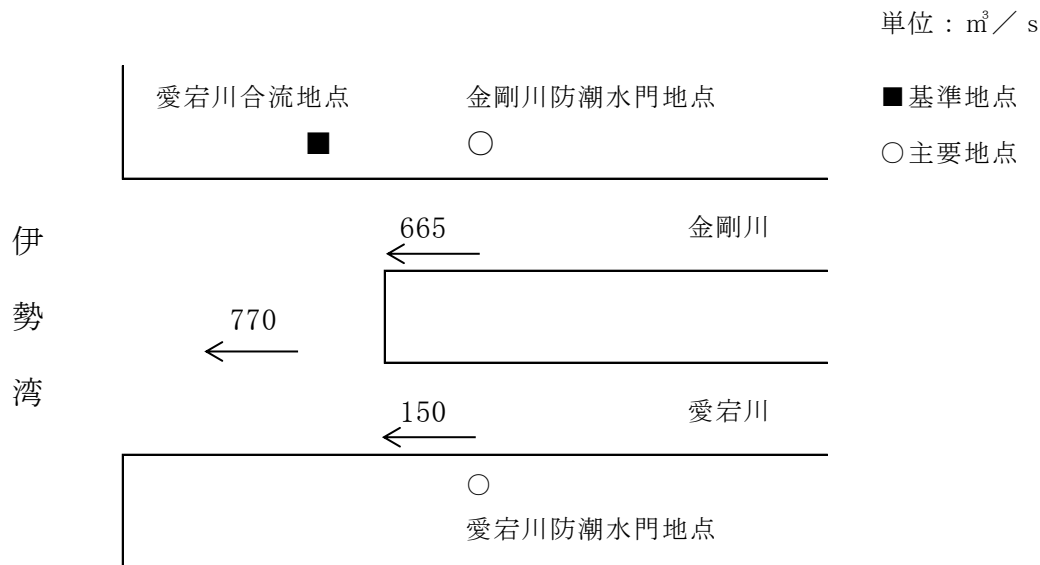
— 金剛川防潮水門及び愛宕川防潮水門は防災上必要な施設であり、金剛川の河川計画において流量把握する上で重要かつ、代表的な地点であるため



河川整備基本方針の概要(基本高水流量)



	河川整備 基本方針
計画規模	1/50
基準地点	愛宕川合流地点
流域面積	50.92km ²
洪水到達時間	103分
降雨強度	74.0mm
流出計算手法	合理式
基本高水流量	770m ³ /s





□ 既定計画と基本方針の変更点

	工事实施基本計画 (平成9年策定)	河川整備基本方針	変更理由
計画規模	1/50	1/50	
基準地点	愛宕川合流地点	愛宕川合流地点	
流域面積	49.61km ²	50.92km ²	最新の資料により流域界を精査した結果による
洪水到達時間	89分	103分	流入時間、流下時間を精査した結果による
降雨強度	71.5mm/hr	74.0mm/hr	降雨強度式の更新
流出計算手法	合理式	合理式	
基本高水流量	730m ³ /s	770m ³ /s	
内水排水量 (ポンプ容量)	97.0m ³ /s	104.7m ³ /s	排水機場の設置状況(ポンプ容量)を反映



河川整備基本方針の概要(対策案比較)

河川改修メニューの検討対象

- ✓ 工事実施基本計画では、基本高水流量の全量を河道改修により対応する計画
- ✓ 現況河道の流下能力は基本高水流量に対して大幅に不足しているため、大規模な河道改修が必要
- ✓ このため、流域の土地利用状況を考慮して、最適な河川改修メニュー（河道改修及び洪水調節施設として遊水地設置の組合せ）を検討

対策	計画の概要	事業費 比率※	総評	評価
河道改修案	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本高水流量を河道改修により対応 ● 流下能力の確保のため、河道掘削・引堤を実施 ● 水門改築、橋梁改築、取水堰改築 ● 近鉄や国道23号橋梁等の大規模改築を伴わない 	100	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 多くの橋梁や、堰の改築・補強等を伴う課題がある ◆ 勢々川、名古屋須川、真盛川は大幅な引堤が必要である 	○ (最適)
ダム案	<ul style="list-style-type: none"> ● 流域内にダムサイトの適地がない 	—	—	×
遊水地案	<ul style="list-style-type: none"> ● JR・近鉄橋梁上流の水田に遊水地を設置して、河道分担量を軽減 ● 河道改修の組合せにより、遊水地規模を検討 	96	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 遊水地のみで河道不足分を補うためには事業費がかかる ◆ 河道改修との組合せることにより、事業費は河道改修案と概ね同等 ◆ 遊水地を設置しても、河道改修案同様に橋梁や、堰の改築・補強及び、引堤は必要である ◆ 湛水容量を確保するためには掘削が必要となり、常時に農地としての利用ができなくなるため、社会的影響が大きい 	△
放水路案	<ul style="list-style-type: none"> ● 引堤を伴う河道改修が困難な場所の上流で、洪水を分流することで河道分担量を軽減させる ● 市街地を避けて直接海域に放流するルートはない ● 各河川の現況流下能力は基本高水流量に対して大幅に不足しているため、分派先の河川流量の増加に対応する河川改修の実施は困難 	—	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県道松阪環状線の下にトンネルを設置することで名古屋須川(3.0K)から金剛川(6.4K)に分派が想定される ◆ 金剛川の河道改修の事業規模が増大(JR・近鉄橋梁等の橋梁改築が困難)する 	×

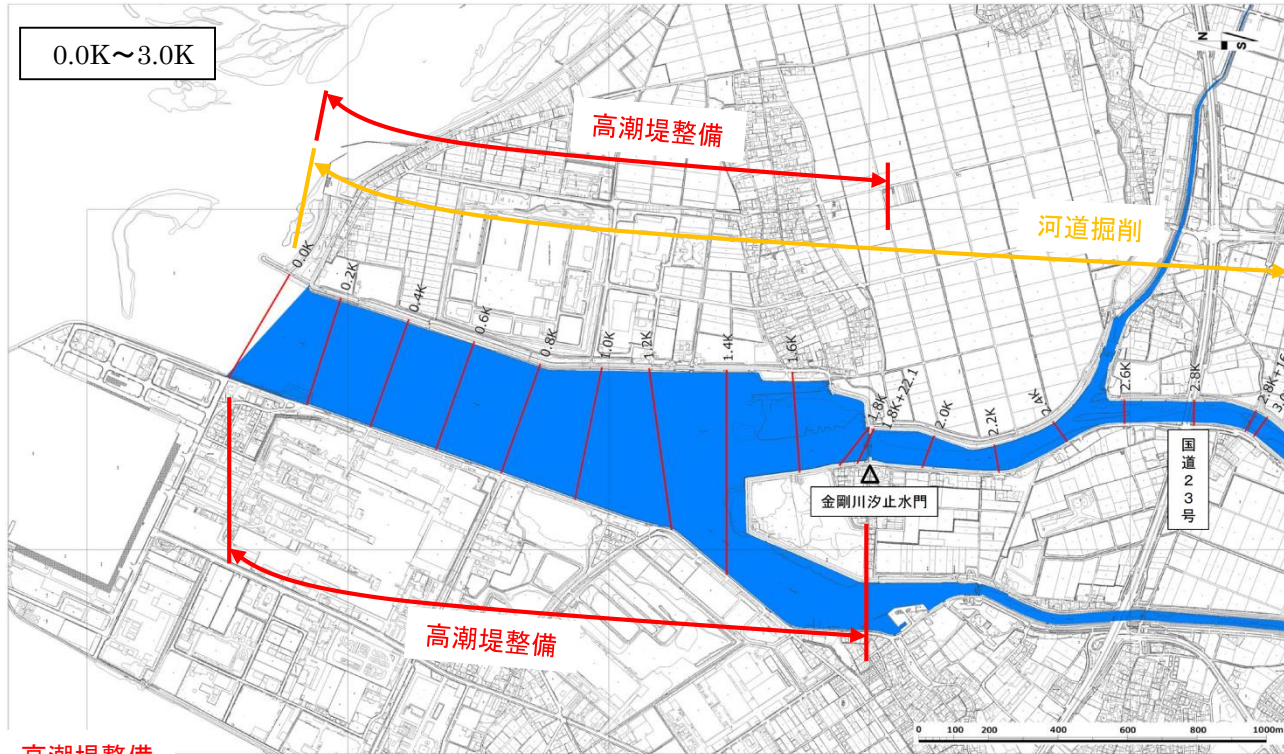
※河道改修案の事業費を100とした時の比率

河川整備基本方針の概要(河道改修案)

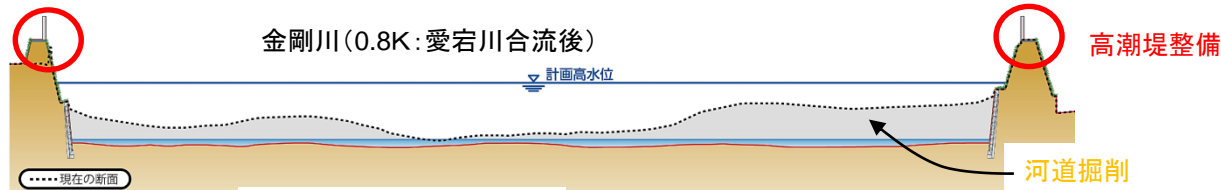


全体平面図・代表断面図(金剛川)

- ✓ 金剛川下流～中流：河道掘削による流下能力の確保及び、高潮区間の堤防整備

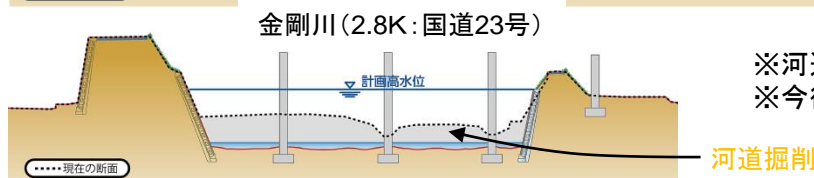


高潮堤整備



金剛川(0.8K:愛宕川合流後)

高潮堤整備



金剛川(2.8K:国道23号)

河道掘削

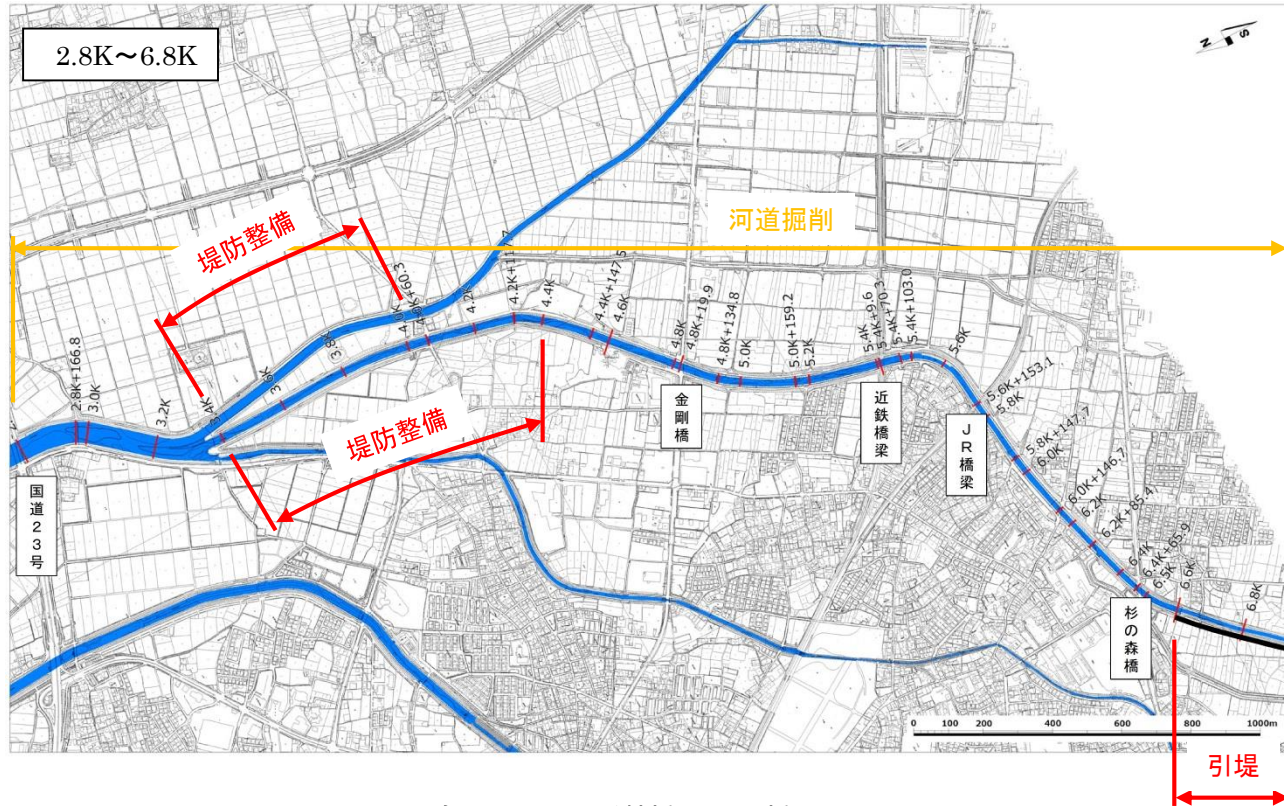
※河道掘削に際しては、現況の自然環境に配慮しながら実施する
※今後の詳細な調査により必要に応じて変更する場合があります

河川整備基本方針の概要(河道改修案)

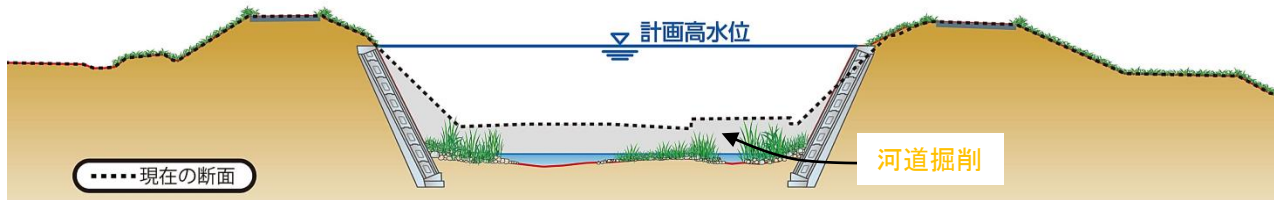


全体平面図・代表断面図(金剛川)

- ✓ 金剛川中流：河道掘削・堤防整備による流下能力の確保



金剛川(5.6K:近鉄橋梁～JR橋梁)



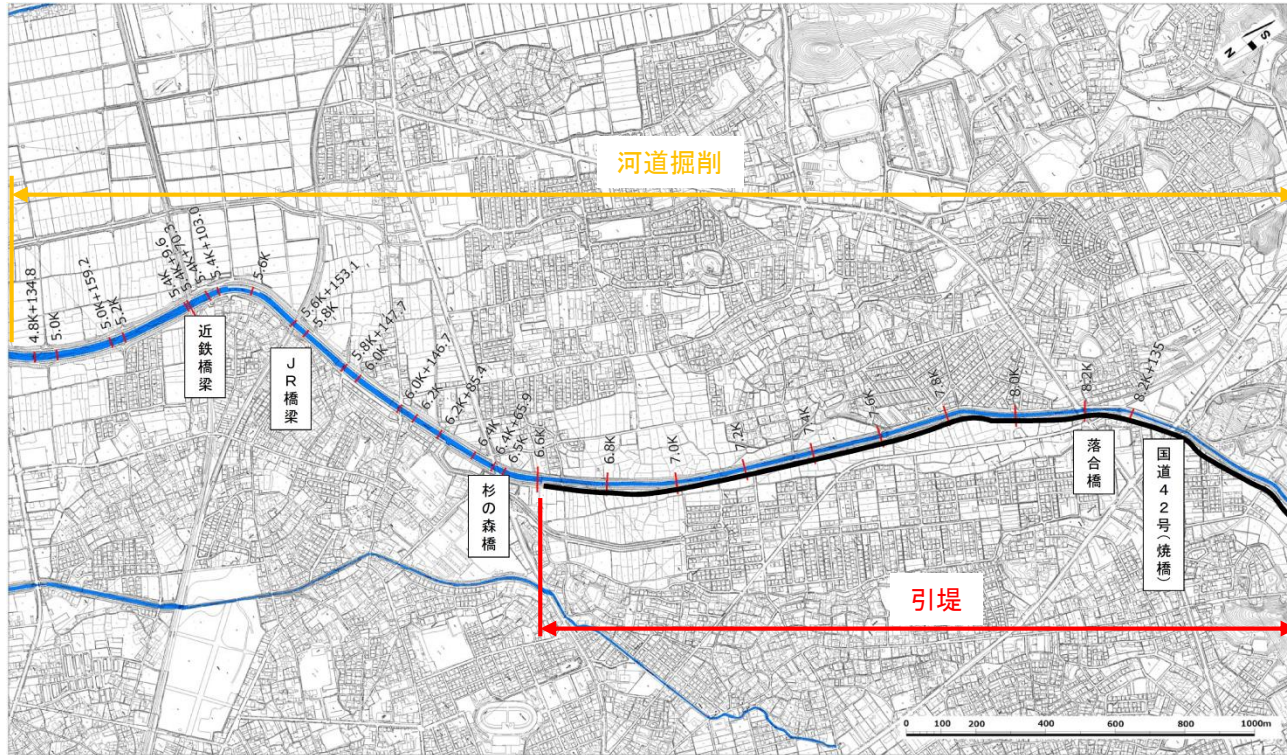
※河道掘削に際しては、現況の自然環境に配慮しながら実施する
※今後の詳細な調査により必要に応じて変更する場合があります

河川整備基本方針の概要(河道改修案)

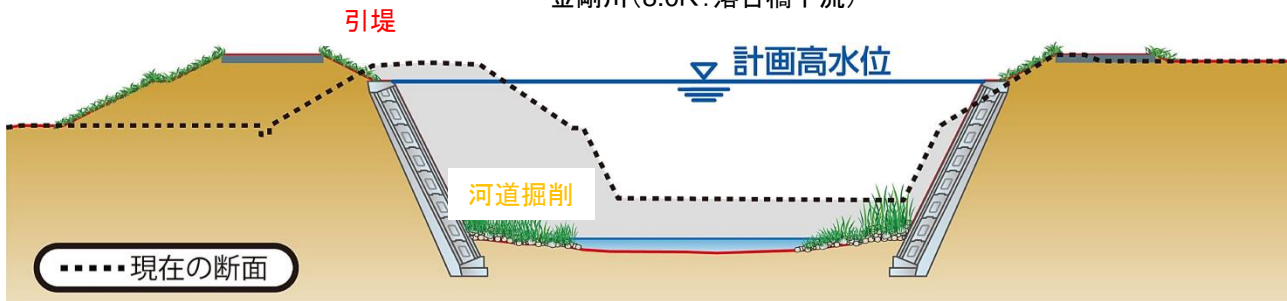


全体平面図・代表断面図(金剛川)

✓ 金剛川上流：引堤・河道掘削による流下能力の確保



金剛川(8.0K:落合橋下流)



※河道掘削に際しては、現況の自然環境に配慮しながら実施する
※今後の詳細な調査により必要に応じて変更する場合がある



7. 河川整備計画(原案)の概要



河川整備計画(原案)の概要

河川整備計画の対象区間

- ✓ 右に示す金剛川水系の県管理区間の全域とする。

水系名	河川名		起点	終点	延長(m)
こんごうがわ 金剛川	幹川 こんごうがわ 金剛川	左岸	まつさかしやまむろちよう しんぼう 松阪市山室町字新房 221 番の 1 地先	海へ至る	9, 875
		右岸	まつさかしやまむろちよう はんざい 松阪市山室町字半在 1048 番の 1 地先		
	こんごうがわ 金剛川支川 あたごがわ 愛宕川	左岸	まつさかしすえひろちようにちようめ 松阪市末広町二丁目 209 番の 2 地先	こんごうがわ 金剛川 へ の合流点	3, 270
		右岸	まつさかしすえひろちよういちちようめ 松阪市末広町一丁目 225 番の 1 地先		
	こんごうがわ 金剛川支川 ぜぜがわ 勢々川	左岸	まつさかしこいちちよう ひがしで 松阪市古井町字東出 342 番の 1 地先	こんごうがわ 金剛川 へ の合流点	1, 600
		右岸	まつさかしこいちちよう ひがしで 松阪市古井町字東出 201 番の 2 地先		
	こんごうがわ 金剛川支川 なごすがわ 名古屋川	左岸	まつさかしまえのへたちちよう こうの 松阪市駅部田町字堀野 237 番地先	こんごうがわ 金剛川 へ の合流点	4, 000
		右岸	まつさかしまえのへたちちよう きたうら 松阪市駅部田町字北裏 1303 番の 5 地先		
	こんごうがわ 金剛川支川 しんせいがわ 真盛川	左岸	まつさかししもむらちちよう くだ 松阪市下村町字口田 80 番地先	こんごうがわ 金剛川 へ の合流点	2, 460
		右岸	まつさかしうえがわちちよう こものつぼ 松阪市上川町字小物坪 1615 番の 4 地先		
	しんせいがわ 真盛川支川 やまたがわ 山下川	左岸	まつさかしうえがわちちよう おしきだ 松阪市上川町字押木田 1610 番の 1 地先	しんせいがわ 真盛川 へ の合流点	500
		右岸	まつさかしうえがわちちよう えんのうら 松阪市上川町字円ノ浦 4497 番地先		

河川整備計画の対象期間

- ✓ 金剛川水系の河川整備計画は、金剛川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その計画対象期間は概ね30年間とする。
- ✓ 本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定したものであり、今後河川及び流域を取り巻く社会状況の変化等に合わせて、必要に応じて適宜見直しを行っていく

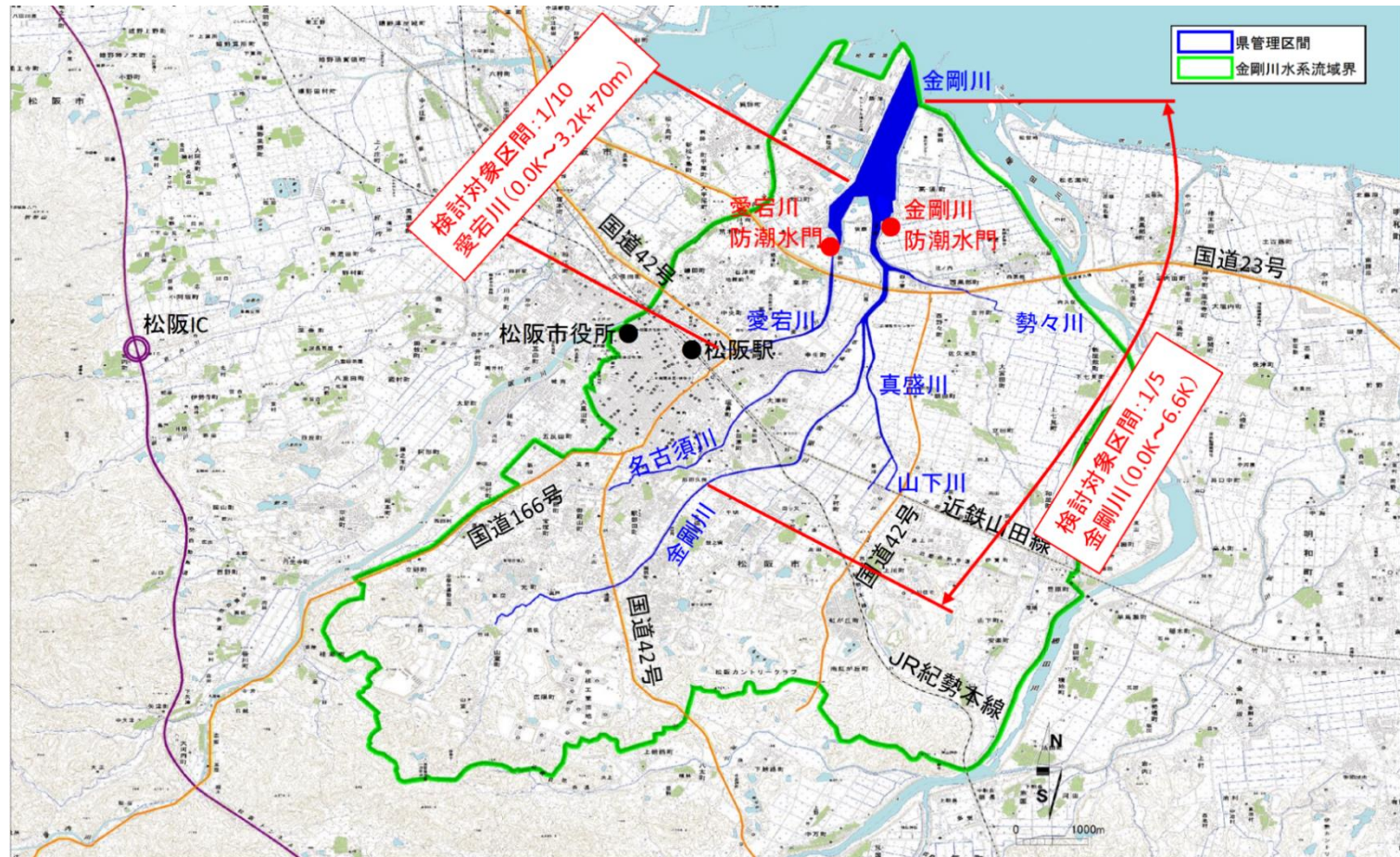


河川整備計画(原案)の概要(計画規模)

□ 治水の目標 (河川整備計画 (原案))

河川整備計画(原案)における目標は、現状の流下能力や流域資産の重要度その他、整備の実現性を考慮し、次のとおりとする。

- ✓ 金剛川: 河口～県道松阪環状線の6.6k区間において1/5の流下能力を確保する。
- ✓ 愛宕川: 河口～国道42号線の3.3k区間において1/10流下能力を確保する。



河川整備計画の計画規模と対象区間(案)

河川整備計画(原案)の概要(計画高水流量)



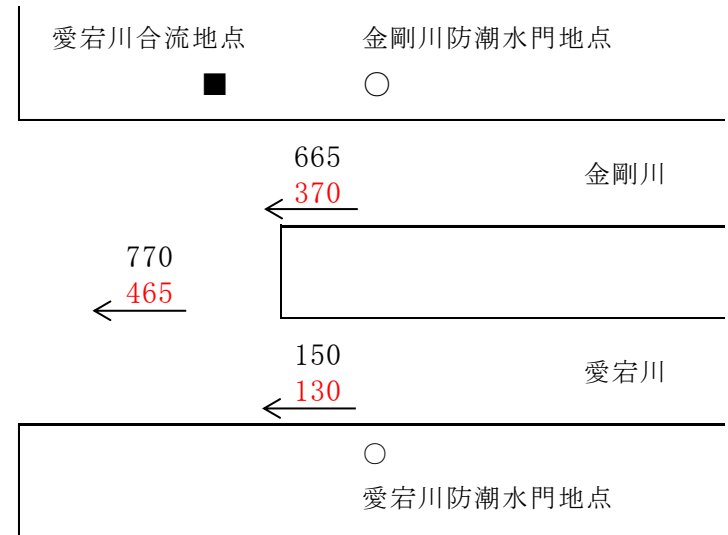
単位：m³/s

■基準地点

○主要地点

	河川整備計画	
	金剛川	愛宕川
計画規模	1/5	1/10
基準地点	愛宕川合流地点	愛宕川防潮水門地点
流域面積	50.92km ²	7.23km ²
洪水到達時間	103分	50分
降雨強度	40.1mm	68.6mm
流出計算手法	合理式	合理式
基本高水流量	465m ³ /s	130m ³ /s

伊勢湾



河川整備基本方針の計画流量(1/50)

河川整備計画の目標流量(案)
(金剛川:1/5 愛宕川:1/10)



河川整備の実施に関する事項

①河川工事の目的

- ✓ 河川工事の目的は、洪水時の河川水位を低下させ、整備計画目標流量を安全に流すことを目的として、河道掘削により河積を増大し、洪水被害の防止を図る。
- ✓ 今後発生することが予想される南海トラフを震源域とする地震に対しては、地震後の津波や高潮による被害を軽減するため、金剛川汐止水門の耐震性能を確保する。

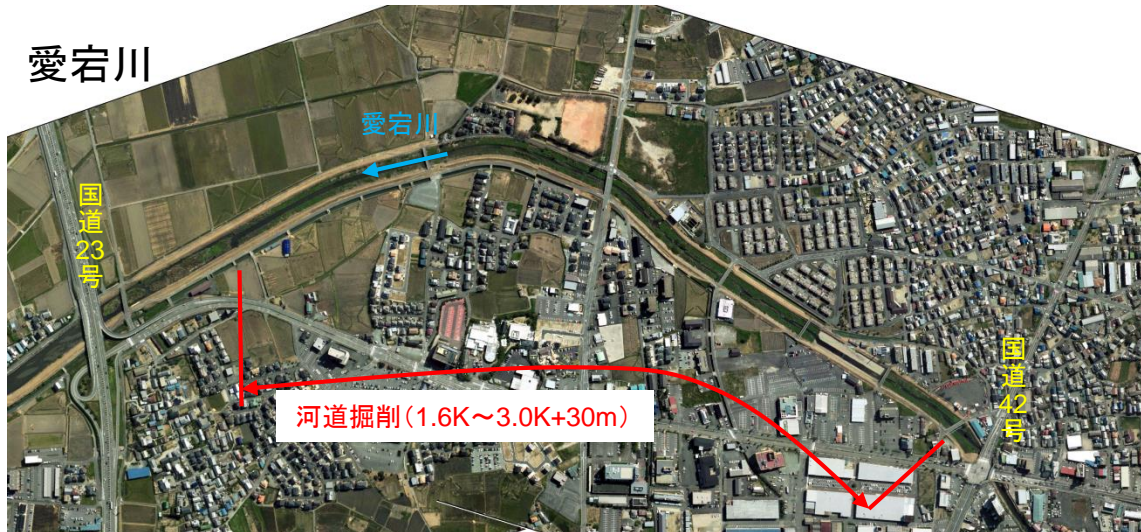
②河川工事の施工場所

水系名	河川名	区 間	主な整備内容
金剛川	金剛川	金剛川汐止水門 (1.8km+22m)	●耐震対策
		金剛川汐止水門上流～名古屋川・真盛川合流点 (2.0km～3.2km付近)	●河道掘削
	愛宕川	国道23号(上流地点)～国道42号(下流地点) (1.6km～3.0km付近)	●河道掘削

※河口から金剛川汐止水門及び愛宕川防潮水門の区間は必要に応じて堤防の耐震対策を実施するものとする。⁵⁵



□ 整備箇所・整備メニュー

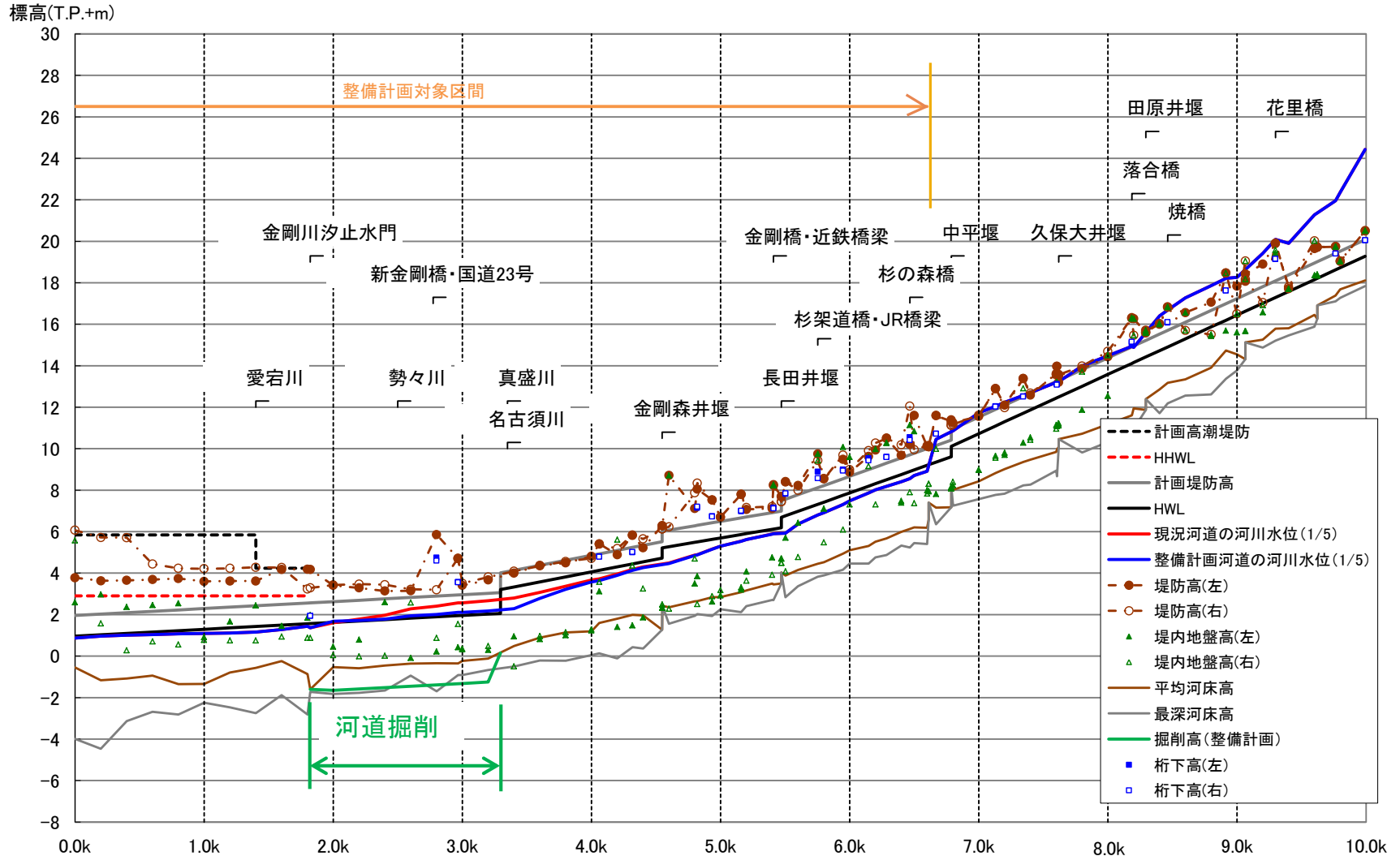


河川名	整備箇所	事業量	整備メニュー
金剛川	1.8K+22m	1基	・金剛川汐止水門の地震対策(耐震化)
	2.0K~3.2K	L=1,200m	・河道掘削
愛宕川	1.6K~3.0K+30m	L=1,430m	・河道掘削

河川整備計画(原案)の概要(水位縦断図)



□ 金剛川：河道掘削の実施により、河口～中平堰(6.7K)区間の河川水位(1/5)は概ねHWL以下で流下させることができる。

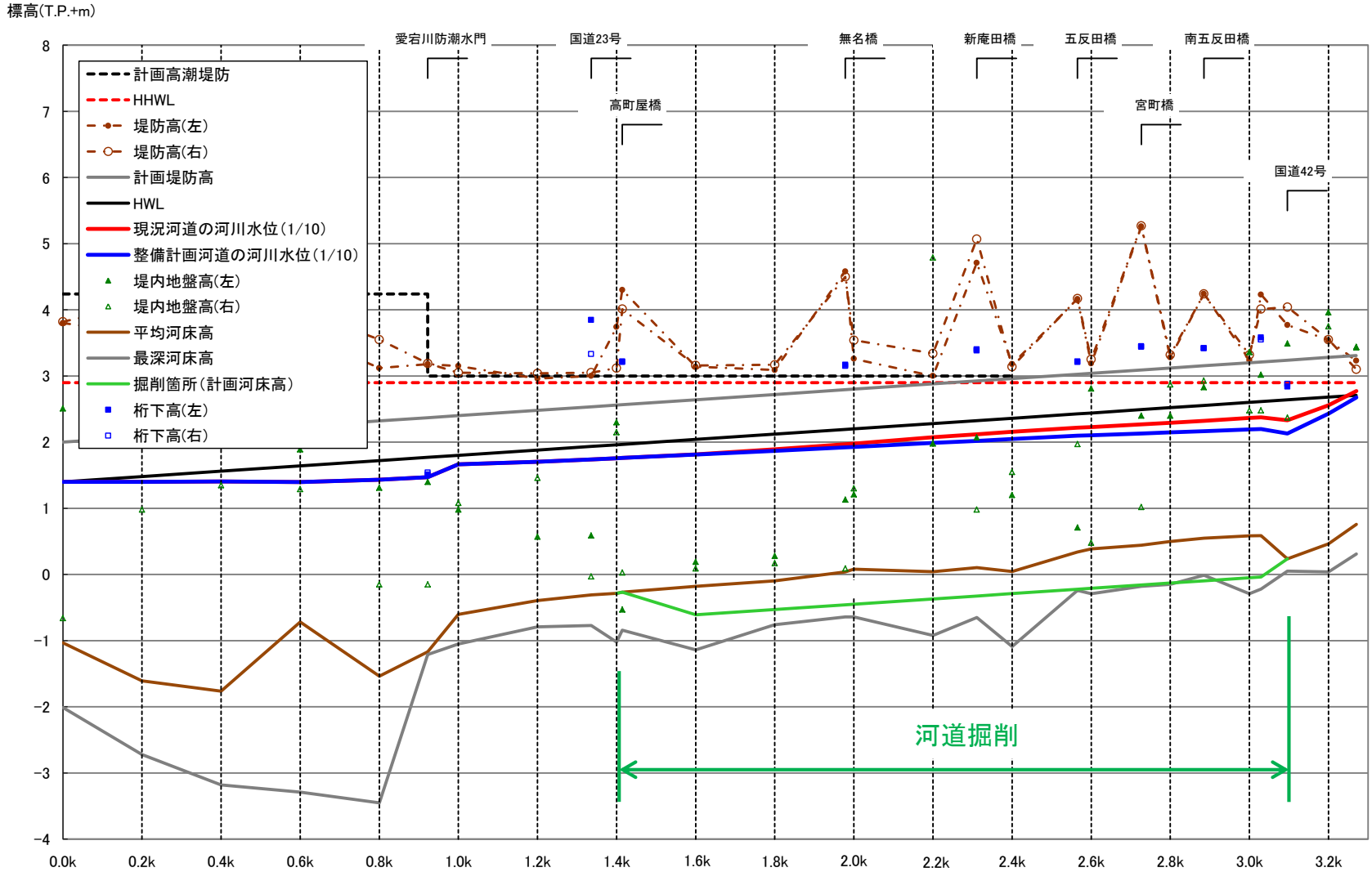


金剛川 現況河道・整備河道の水位縦断図(1/5)

河川整備計画(原案)の概要(水位縦断図)



□ 愛宕川：河道掘削の実施により、河口～国道42号線(県管理区間：3.2K+70m)区間の河川水位(1/10)は、HWL以下で流下させることができる。



愛宕川 現況河道・整備河道の水位縦断図(1/5)



□ 河川環境の整備と保全に関する目標

- ✓ 金剛川の流れが生み出す瀬・淵などの良好な自然環境と河川景観を保全し、多様な動植物の生息・生育・繁殖する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努め、川と人々の営みが共生できるような整備を推進する。
- ✓ 河川工事等による良好な河川環境への影響が懸念される場合には、代替措置や環境に配慮した工法や構造の採用等により、環境への影響の回避と軽減に努める。

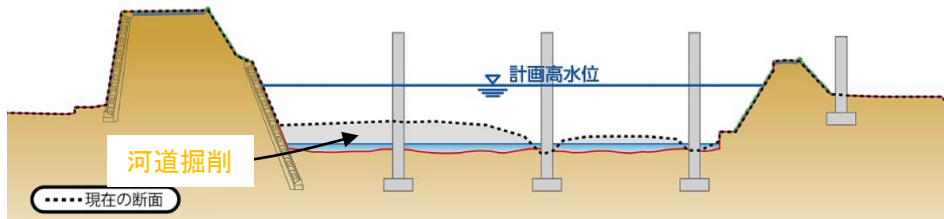
河川整備の実施に関する事項

③主要工事の概要

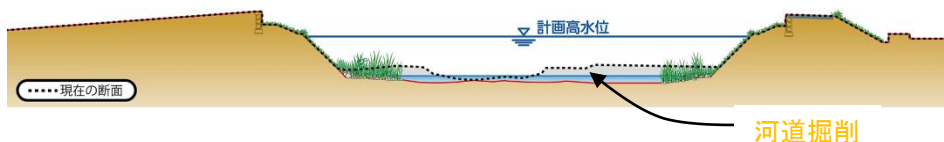
- ✓ 河川工事においては、河道掘削により流下能力の向上を図るものとする。
- ✓ 地震・津波対策としては、金剛川汐止水門の耐震対策を実施し施設の安全性を高めるものとする。

河川工事

金剛川 2.8K
(国道23号線)



愛宕川 3.0K+30m
(国道42号線直下流)



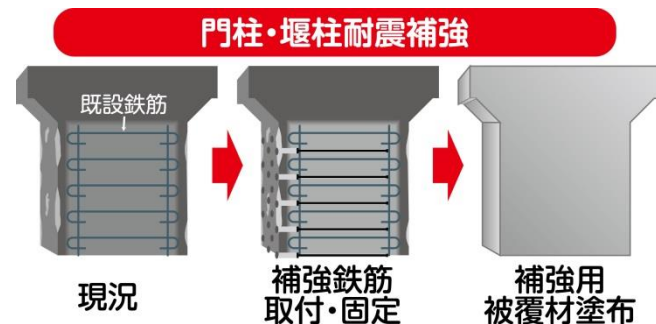
※河道掘削に際しては、現況の自然環境に配慮しながら実施する
※今後の詳細な調査により必要に応じて変更する場合がある

金剛川汐止水門の耐震対策



■耐震診断の結果、L2地震動に対して門柱・堰柱のせん断耐力が不足するため、耐震補強が必要。

(耐震補強のイメージ)





□ 河川の維持の目的、種類および施工の場所

①河道及び河川管理施設の維持

- ✓ 河川内に堆積した土砂等が洪水の流下を阻害する恐れがある場合には、必要に応じて土砂を撤去し河積を確保するものとする。
- ✓ 土砂の撤去の際には、平坦な河床としないなど自然環境への配慮を行う。
- ✓ 定期点検により法崩れ、ひび割れ、漏水、沈下等の異常が無いかを確認し、必要な対策により機能維持に努める。
- ✓ 河川管理施設の維持については、洪水、高潮、津波等の際、必要な機能が発揮されるよう、適切に点検、巡視等を行い、必要に応じて補修・更新を行うとともに予防保全が必要な施設については、長寿命化計画に基づき、計画的に適切に修繕・更新に努める。
- ✓ 除草等の日常管理に努めるとともに、関係機関等との連携を図りながら河川美化に努める。



□ 河川の維持の目的、種類および施工の場所

②水量の監視等

- ✓ 自然環境の保全、安定取水に必要な流量の確保を目指し、水量の監視を行う。
- ✓ 関係機関との連携・協力のもと、適切な水利用の促進と水利用の効率化に努める。

③水質の保全

- ✓ 流域市町等関係機関との連携・協働を図りながらより一層の水質改善に努める。

④河川環境の適正な利用と管理

- ✓ 植生に関してはヨシ群落等の良好な自然が残されていることから、保全に努める。
- ✓ 水生生物への配慮として、河川・水域の連続性の確保に努める。



□ その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

①整備途上段階および超過洪水への対策

- ✓ 計画規模を上回る洪水や整備途上段階における洪水並びに発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」による被害を最小限に抑えるよう、ソフト対策として、浸水想定区域図の作成等、松阪市が取り組む洪水ハザードマップ作成の支援を行い、総合的な被害軽減対策を流域の松阪市等関係機関や地域住民と連携して推進する。
- ✓ 内水被害の著しい地域においては、関係機関と連携・調整を図り、必要に応じて内水被害の軽減対策を検討する。
- ✓ 流域内の開発等による河川への負荷を軽減するため、関係機関と連携・調整を図り、雨水等の流出抑制対策に努める。
- ✓ 松阪市への情報伝達及び警戒避難体制の整備を行うとともに、住民の防災訓練の参加等により、災害時のみならず平常時から防災意識向上や水防活動の充実に努める。



□ その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

②河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項

- ✓ 流域住民等の地域関係者との「協働」を進め、河川に関する各種情報の提供や地域関係者との意思疎通に努める。
- ✓ 河川管理者、地域の住民や学校、企業、団体等の各主体がそれぞれの担うべき役割を認識し、その役割を果たしつつ、相互の連携に努める。



8. 今後の予定



■ 今後の進め方

□ 第1回 流域委員会（H28年7月12日）

✓ 流域の概要、現地確認

□ 第1回 アンケート（H28年8月頃）

✓ 関係住民の意見聴取

□ 第2回 流域委員会（H28年10月25日）

✓ 治水・利水・環境の現状・課題

✓ 河川整備計画の検討の概要

□ 第3回 流域委員会（H29年1月31日）

✓ 河川整備計画の概要

□ 第2回 アンケート（H29年2月）

✓ 関係住民の意見聴取

□ 第4回 流域委員会（H29年3月27日） ←今回開催

✓ 河川整備計画原案の提示

□ 関係機関協議・パブリックコメント・関係市長 意見聴取

□ 策定